- 藤村石油株式会社社史 -

#### ごあいさつ



弊社は、明治三年菜種油商を創業し、その後石油の取り扱いを始めてから今年で満九十年になります。 この間、初代藤村嘉吉より四代目藤村栄一まで営 業を続けて今日を迎えることが出来ましたのは、ひ とえに御当局の御指導の下、永年御愛顧頂きました とえに御当局の御指導の下、永年御愛顧頂きました とえに御当局の皆様方の本当に暖かい御支援のたま ものと衷心より御礼申し上げます。

今ここに創業以来百十五年を顧みますと、数次にやここに創業以来百十五年を顧みますと、数次にもたのは、世の中の為になるものは必ず栄える。としたのは、世の中の為になるものは必ず栄える。との信念からでございました。

一つででは、
一つででは、
では、

ます。
を記念して編集したもので"あぶらや"のつたないを記念して編集したもので"あぶらや"のつたない

藤村石油株式会社昭和六十年九月一日日

代表取締役社長



石油販売九十周年を祝して藤村石油株式会社



取締役社長 杉原泰馬モービル石油株式会社

以来、 きにわたり、 カンパニー 周年のお慶びを申し上げます。 本支社と販売代理店契約を締結され であります、 貴社は、モー 会社の皆様方に心から、 顧みれば一八九五年(明治二十八年)、 藤村栄一社長はじめ、 明治・大正・昭和と九十年の長 ・オブ・ニューヨークの日 石油製品の販売を通じて スタンダード・オイル・ ビル石油株式会社の前身 藤村石油株式 石油販売九十

国において近代石油商業が確立されん明治二十八年といえば、まさに我が

ことに、<br />
心より<br />
敬意を表するものであ<br />
地域経済社会の発展に<br />
貢献されてきた

ります。

4



ことに、 済の中に確固たる地歩を築かれました をもって石油販売に着目され、 とする黎明期にあたります。 そのような時期に、 改めて敬服の念を禁じえませ いち早く先見性 地域経

りであります。 見るに至ったことはまことに心強い限 を見事に乗り越えられ、 明治・大正 は灯油ランプの時代から、 エレクトロニクスの今日に至るまで、 口に九十 ・昭和の 年と申 三代におよぶ風雪 しましても、 今日の隆盛を 宇宙衛星、

質の強化が不可欠なものとなってきま 栄するためには、 環境を乗り越えて、 環境におかれております。 ネルギーこそ、 この輝しい記念すべき年を、 石油販売業界は今日、 この荒波に立ち向い、 ポイントとなりましょう。 今後生き残るためのキ 何にもまして経営体 企業が継続的に繁 非常に厳 この厳しい 打ち勝つエ 更に将

みません。 よう、 来の飛躍に向けてのステップとされる 今後の努力と精進を期待してや

申し上げます。

重ねて貴社の御隆昌と御発展をお祈

昭和六十年九月



# 放 備 地下タンク 一○キロリットル五本計 量 器 六 基リ フ ト 一 基洗 車 機 一 基



## 本町営業所



←垣生

県道久米垣生線

宇和島♣

伊予マツダ

●つり具ハリキチ

所在地 積 松山市保免西三丁目一一番一八号 地下タンク 六四七平方メートル ○キロリットル五本 基 基 基

洗



所在地 積 地下タンク 松山市北藤原町 Ŧi. 〇キロリ 基基基 Ŧi. 七

ル五本

面

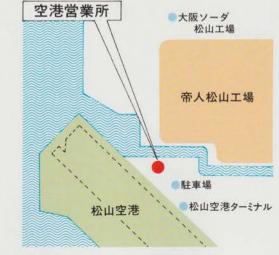
設



設 面 所在地 消火ポンプ他消火装置施設 松山市南吉田町 大型ポンプ 地上タンク一八〇キロリ 八五六平方メ 二基 110キロリ 一〇キロリッ ートル (空港内) 二式 トル

ル ル

基 基





明治牛乳

松山市消防局西消防署

国道196号線

中央通り ●パチンコ いすず

◎城西自動車学校

ロッテリア

衣山営業所

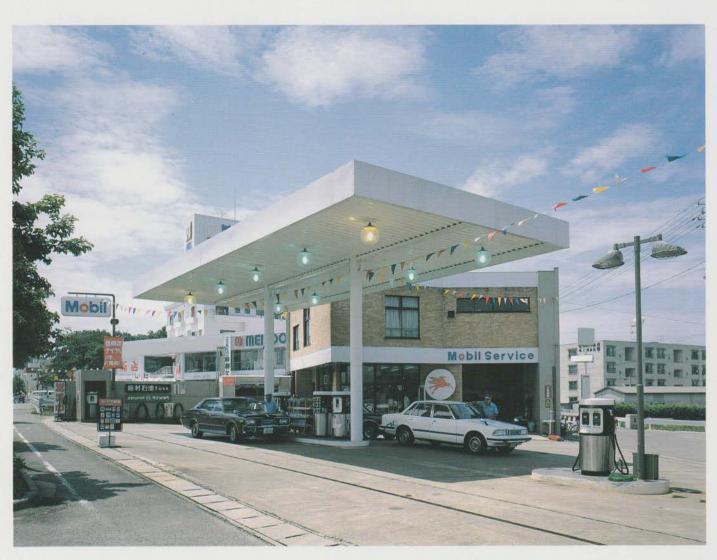
本社

フジ本町店

松山市中央一丁目二一二三 一一二〇平方メートル 一 二 基 基 一〇キロリットル四本 三〇キロリットル三本

中型ポンプ





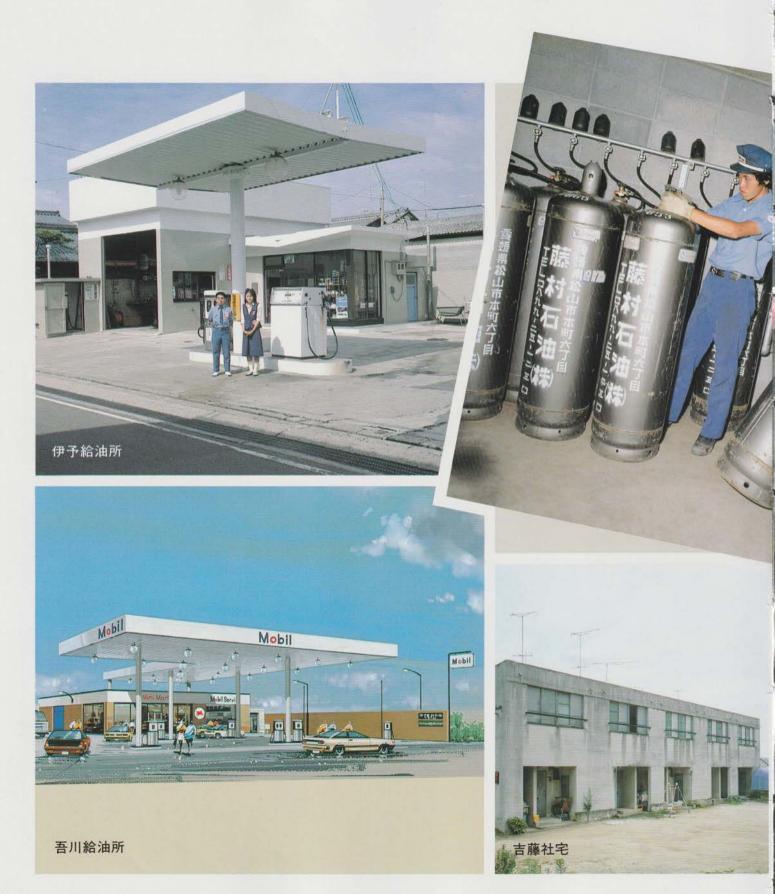
所在地 松山市天山町三二八一二 面 積 五一二平方メートル 計 量 器 六 基 リ フ ト 一 基 洗 車 機 一 基







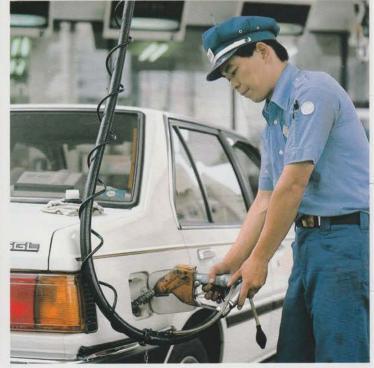












#### 藤村石油株式会社役員



取締役 福井



相談役 藤村 房子



代表取締役 藤村 栄一



高門 取締役 恒一



滝政 延男 常務取締役



伊予藤村石油㈱代表取締役 藤村 孝子



藤村 孝子 監査役



藤村 泰雄 取締役



天山橋石油㈱代表取締役 梶野 熊好

油屋創業までのあゆみ・・・・・18 藩政時代の郡中 初代嘉吉の時代の社会状況 嘉吉、菜種油商を創業
ランプ時代から隆盛期へ24 ニューヨークスタンダード石油会社と契約 モービルオイル小史
戦後の発展・・・・・37 苦しい石油統制時代 営業再開、栄一代表者となる 航空燃料の納入はじまる スタンバック、モービルとエッソに分割 藤村石油株式会社設立 松山市に本社移転 代理店70年で表彰
モータリゼーションの到来50 伊子藤村石油㈱と天山橋石油㈱の設立 40年代の思い出 プロパンガスのこと 石油危機起こる 代理店80年で表彰
新しい時代への躍進・・・・・・・64 代理店90年で表彰 座談会
未来をひらくオイル・マンの役割70
藤村長十郎を語る・・・・・34 三代目長雄のこと・・・・・36 米業界誌「ザ・ランプ」に紹介される・・・42 全日空機松山沖墜落事故の思い出・・・49
■湊町藤村石油店のこと…23 ■社会の動き…21・29・31・45 ■石油物語…39・46・48・55 ■石油のQ&A51
藤村石油株式会社グループ概要76 あとがき79

# 藤村石油株式会社社史

# 油屋創業までのあゆみ



▶創業者/藤村嘉吉

なお、米穀御用商「米屋」の所在地・湊町

商業の歩みと密接なかかわりを持っている。 「米屋」を名乗っていた。したがって藤 代松山藩、大洲藩の米殼御用商人をつとめ、屋 生まれた。嘉吉の生家は江戸時代初期より歴 生まれた。嘉吉の生家は江戸時代初期より歴 生まれた。嘉吉の生家は江戸時代初期より歴 大松山藩、大洲藩の米殼御用商人をつとめ、屋 では、大川藩の米殼御用商人をつとめ、屋 大松山藩、大洲藩の米殼御用商人をつとめ、屋

# 藩政時代の郡中

四年の廃藩置県令までの二百五十余年の間、 大洲藩加藤公によって治められた。この間に 大洲藩加藤公によって治められた。この間に 松山藩との領地交換による替地、天領移管間 を さらには安政の大地震、大干ばつ、農民 一揆などに揺れたが、産業の中心が農業であったことに変わりはなかった。

七三五)改称された。
七三五)改称された。
といって小川町と称していたが、享保二十年(一つて小川町と称していたが、享保二十年(一本)の一つで、は郡中三町(灘町、湊町、三嶋町)の一つで、

#### 郡中の商業

された人々の中に、米屋亀吉が五百目を出した 年(一八六〇)十一月十四日、 記録」(塩屋惣右衛門自筆)によると、 襲に備え鉄砲を渡されたことが記述されてい こと、文久三年 で難渋者への助情金を差し出すよう、 屋亀吉である。 藩政初期から連綿と続いた米屋。 "中興の祖"となる米屋嘉吉の先代は米 社会事業などを記録した「塩屋 嘉永年間から明治四年までの (一八六三)には、 町方が米高値 異国船来 のちに藤 万延元 いい渡

さて、米穀商・米屋が飛躍的発展を遂げたのは江戸時代中期以降であった。即ち、小川町が湊町と名称を変えた時期(一七三○~一七五○)のことである。このころから、郡中三町の商人は他領との取引を認められ、多大の収益を挙げるに至る。やがて商人の経済力は藩政をも左右するほどになる。米屋もその一人であった。

当時、大洲藩は商人に商札(商業鑑札)をと捨て商札を受ける者が相次ぐという事態もを捨て商札を受ける者が相次ぐという事態もをおいる。いかに商業が隆盛期にあったかと物語る一件である。

なお、商札は営業種目によって格差が設け

の創築、 安定と独占を確保するに至る。そして組合の 人たちは互いに同業組合などを結成、 る。これには文化九年 になると、 なる菜種油商は十五匁クラスの商札であった。 の商札は最上級の銀三十匁であったろう。 られていた。俵物 た、後に米屋から分家した嘉吉が興すことに こうして文化・文政期(一八〇〇年代初期 呉服屋などは銀十五匁であった。 拡張などが大きな役割を果たす。 いっそう商店が繁盛することとな (米、 (一八一二) の万安港 大豆) は銀三十匁、 営業の

連上金や藩への冥加金を収めていた。これら

商人の中には藩の窮乏に際し多額の献金をし、その功により特別に名字帯刀を許され藩から保護を受ける者も出てきた。この時代、士農工商の身分のなかでも最も裕福な暮らしをしていたのは町人(商人)であった。こうした時代の状況下に現在の藤村石油創業者、米屋嘉吉が生まれる。天保十二年(一八四一)のことである。時あたかも世は「天八四一」のことである。時あたかも世は「天八四一」のことである。時あたかも世は「天八四一」のことである。時あたかも世は「天八四一」のことである。時あたかも世は「天八四一」のことである。時あたかも世は「天八四一」のことである。時あたかも世は「天八四一」のことである。



▶嘉吉の先代亀吉の大福帳

▶藤村家に今も残る古銭・藩札

# 初代嘉吉の時代の社会状況

米屋嘉吉は激動の年に産声を上げた。この年の五月には天保の改革が始まり、その前々年には、「蛮社の獄」があった。「夢物語」を特した高野長英、渡辺華山らが投獄された事件である。この高野長英は郡中ともかかわりを持つ人物である。

長英は嘉永元年 (一八四八)、字和島に来て 「住む大洲藩医・藤井道一を訪れている。そ に住む大洲藩医・藤井道一を訪れている。そ して、その年、長英は江戸に帰り自刃して果

この藤井道一はオランダ医学で有名な杉田玄白の流れを汲む外科手術の名人であった。また、詩文にも長じ頼山陽との交わりもあるインテリとしても知られていた。このため、の道中、藤井宅を訪れている。

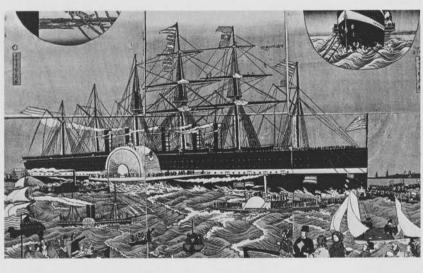
嘉吉の幼年期には、さまざまな事件が起き といえば、嘉永六年(一八五三)六月の米国 といえば、嘉永六年(一八五三)六月の米国 で東節が長崎に来航するなど、日本と諸外国 の間には不隠な空気がみなぎっていた。嘉吉 の間には不隠な空気がみなぎっていた。嘉吉

ては『まさか』の出来事。異国船の話は遠い治した。ペリーが浦賀に来航して八年後のことである。大洲藩をはじめ郡中の人々にとっとである。大洲藩をはじめ郡中の人々にとっとである。大洲藩をはじめ郡中の人々にとっ

感じ、海外雄飛の夢を抱いたのであろうか。 おそらく長浜沖の異国船を群集にまじって見たであろう。黒船を見つめる嘉吉の胸に去来たであろう。黒船を見つめる嘉吉の胸に去来

# 大凶作・大地震から経営哲学生む

嘉吉が幼年期から青年期に移る天保、嘉永、



黒船

安政、文久の時代、郡中地方は大地震、大凶作に見舞われた。二十歳までの間、二回の大 地震と三回の大凶作に遭遇する。そして農民 の悲哀と家財のもろさを目のあたりにする。 これは後年の藤村家の礎を築くうえで得がた これは後年の藤村家の礎を築くうえで得がた 大凶作は不思議なことに異国船の来航時に 吹を 大凶作は不思議なことに異国船の来航時に

の驚異によって確立された。

「家財は土地に残すべし、家は火事に焼け 崩れ、震災に流され、農作は干天にほされて しまう。が、土地は水に流されず、火事に焼 けず、年貢米は災害に会っても高く売れる。 これは藤村家の口伝として、第二代目長十 郎に伝えられ、三代目長雄に口移され、四代 即に伝えられ、三代目長雄に口移され、四代 目現社長藤村栄一に伝わっている。嘉吉のこ の才覚、才智が今日の藤村石油の基礎をなし たとされるゆえんである。

## 兵役と分家―藤村姓へ

藩政末期、全国的に急激な海防意識の高揚があった。大洲藩とて例外ではなかった。長打たねば」と考えていた節がある。しかし、打たねば」と考えていた節がある。しかし、切ければ」と考えていた節がある。しかし、

#### 社会の動き

1841 (天保12) 米屋嘉吉、大洲藩領郡中湊町に誕生 この年、天保の改革始まる

1849 (嘉永 2) 高野長英、卯之町の宇和島藩医二宮敬作 と交友の後、郡中灘町の医者藤井道一宅 に1泊して江戸へ

1853 ( " 6) 6月 ペリー浦賀に来航 10月 大村益次郎、宇和島への道中、郡 中の藤井道一宅に1泊

1854 (安政元) 11月 大地震で郡中の家屋崩壊による圧 死者11名 嘉吉13歳

1857 ( " 4) 8月 伊予国各地に大地震 郡中で死者 4名

1858 ( " 5) 9月 伊予国各地にコレラ流行

1859 ( " 6) 6月 大洲藩、異国船警備のため郡中各 村に壮丁を待機させる

1861 (文久元) 3月 伊予長浜沖に異国船停泊 6月 松山・大洲藩内に大干ばつ 7月 ロシア船、三津浜に来る

1863 ( " 3) 3月 嘉吉22歳 代官所の町民志願兵に 応募し湊町隊に配属される 6月 フランス船、長浜沖に停泊

1864 (元治元) 7月 第1次長州征伐

1866 (慶応2) 6月 第2次長州征伐 7月 大洲領内ノ子騒動、30ヶ村の農民 米屋、酒屋を襲撃

1867 ( " 3.) 8月 伊予国各地に干ばつ

1868 ( " 4) 1月 戊辰戦争始まる 字和島、大洲、 新谷藩の各兵、松山討伐令により郡中に 着陣

1869 (明治2) 6月 版籍奉還

1870 ( # 3) 嘉吉29歳 大洲藩、郡中隊を解散、嘉吉 失職

> 2月 油株が廃止され、油締りが一般に 開放される

9月 屋号が廃止され、名字許可となり 嘉吉は初めて藤村姓を名のる この年、嘉吉は菜種油商を創業 奇しく も同年アメリカではジョン・ロックフェ ラーがオハイオスタンダード会社を創立

1971 ( " 4) 7月 廃藩置県 大洲県の成立 8月 大洲若宮騒動、郡中騒動起こる 11月 郡中地方は宇和島県に移管、その 後神山県と改称

この年、2代目藤村長十郎誕生

1973 ( 〃 6) 2月 神山、石鉄両県合せて愛媛県誕生

もの 郡中に地域住民組織による自主警防 組織とはい 的 なもので 後の文久 0 之、 強 固 これは各村からの 元年 な警防団とい の団を作 う 長

は

である。

同時に郡中に百三

三年(一八六三)三 主体であ 民の志願兵を募 ルだけ 0 警防 本格的 異国 兵士などは 事件であ J 幕府もこれを認め 船である。 を編成 な防衛隊組織 った。 月、 郡中の代官所は農民 加 してはい わ 「青天のへきれき」 わ 0 ゆる てい づくり たが 「農民 た。 の進 弱

> 吉は民 治 袴をつけ、 になる嘉吉 嘉吉の 兵 としての生活を送り、 町隊は であ 砲 0) 訓 Ŧi. と七 練にはげ 0 Ħ 政 に

洲藩もこれ 府は諸 改革と同 さらに嘉吉 このとき米屋嘉吉改め藤村嘉吉と名乗 0 ことであ に従 米屋を離れた形となっ 0 に屋号を廃 身に 10 郡 中隊を解散する。 機 止し名字 が 訪 n ていた嘉 政 府 は 兵

ることになった

鉄砲を交付 鉄砲を手にした一人が二十二 射撃訓練が始まっ

中 から見守った。 職 奉還 後 明

維新を郡 兵制 (一八七〇)、 の改革と兵員減少を通 嘉吉は失 する。 新

際のところ考えてい

なか

0

たからであ

明

治

小藩の目前

に異国船があらわ

れるなど、

は大変なも

のであ したとき

たろう。

船が停泊

0 内 実

ように、 幕末の クフェ 創立したのもこの それは今日 新政 述するが、 所の ラー 動 べきことはこ 村嘉 乱期 近 が アメリ 代国 0) に青年時代を過ごした嘉吉は、 才 藤村石油 1 家建 一八 + カにお で新 n れだけ 設 七〇年であ に歩 スタンダード の胎動を告げ ではな Vi 調 神を合 歩を踏 3 b み出

業の年 なの であ

を

き年である。これまでにみてきた如 明 重 治三年とい 妻を抱えた嘉吉が菜種油商を創 るから 村姓を初めて名乗ったう う年は藤村家にとって記 0 まり、 村 石

# 嘉吉、菜種油商を創業

じめる嘉吉である 革のあおりを受けて失職。さらには米屋から の分家が契機となって自主独立の道を歩みは 藩郡中隊の民兵であった嘉吉は政府の兵制改 吉は菜種油商「藤村商店」を創業する。大洲 明治三年(一八七〇)、藤村姓を名乗った嘉

同年二月の政府による油株廃止令であろうと 中で、ランプ時代の到来を予感したのであろ ったのか?むろん明治という時代の夜明けの 独立して選んだ家業が、 さらに、この子感を現実化したものは、 なぜ菜種油商であ

ある。 この年から一般に油絞りが開放されたわけで 定業者だけが灯油の製造販売を行っていた。 藩政時代、油絞りは藩の許可制であり、特

ぶらや」ありと言わしめるまでに急成長した 売は繁盛の一途をたどる。そして郡中に へと脂の乗り切った働き盛りでもあった。商 い社会、経済状況が、 のであった。 いたといえる。嘉吉自身、三十歳から四十歳 藤村嘉吉の『先見の明』と明治という新し 嘉吉の新事業成功を導

### 一代目·長十郎誕生

苦は並大抵のものではなかったはずだ。 であった。来るべき新時代をランプ時代と読 み、新商売に打ち込んだとは言え、嘉吉の労 菜種油商を創業した当時、 嘉吉の妻は身重

> 二十三歳、明治二十七年(一八九四)まで続 当時、菜種は石臼に入れ横棒をつけ馬に引か けられていたという。 熱心に拍車がかかったことは言うまでもない。 喜びは想像を超えるものがあったろう。 の長十郎が生まれた。第二代目を得た嘉吉の せて油を絞り取っていた。この方式は長十郎 創業の翌年、 明治四年 (一八七一) に長男

湊町に置かれ、 く近代国家としての体制が整ってくる。 して愛媛県に統一される。 明治二十一年(一八八八)には松山市内に この間、伊予は神山県と石鉄県が 郡中銀行も創立され、 伊予郡役所が郡中

設立される。通称"坊っちゃん列車"と呼ば 国内第二番目の民営鉄道、 れる汽車が人々の足となり、 「伊子鉄道会社」が 人と物資の輸送



▶菜種油のつぼ(藤村家蔵)



#### 菜種油から石油へ

菜種油商として堅実な商売をしてきた嘉吉 は、成長する長十郎に経営哲学の極意と、「土 地を持つべし」という信条を口伝した。幕末 の動乱期、大凶作、天災を目のあたりにして きた嘉吉の人生訓である。

長していった。 長していった。 長していった。 長していった。 長一郎も第一級の経営者として成 えのもと、長十郎も第一級の経営者として成 えのもと、長十郎も第一級の経営者として成

翌年には町村制の実施により郡中町が発足す翌年には町村制の実施により郡中町が発足する。

長十郎は、こうした改革期の世にあって、不油こそ次の時代に欠かせぬものであるで、石油こそ次の時代に欠かせぬものである。

「石油は必ずや必需品となる。いまこそ石油は必ずや必需品となる。いまこそ石油を扱わねば…。」まさに父ゆずりの鋭く適確に時代を読む能力にたけていたといえよう。こ時代を読む能力にたけていたといえよう。こ時代を読む能力にたけていたといえよう。こりて長十郎は父とともに明治二十七年(一方地の)、勇躍ニューヨーク・スタンダード石油は必ずや必需品となる。いまこそ石油



## 湊町藤村油店のこと

(下香川 田中金重氏口述)

屋や醬油屋と同じ工程と推察している。し、掛声と共に圧縮していた。ちょうど酒種油しぼり作業に数名の元気な若者が従事を一つ隔てて西側に大倉が建ち、其の中でご先祖長十郎さん時代の頃、旧登記所道

私(田中金重老人九十三歳)が十六歳で港町伊予かすり会社入社当時、店では六十歳町伊予かすり会社入社当時、店では六十歳が主で、それ以下が多かった。石油がどんが主で、それ以下が多かった。石油がどんが主で、それ以下が多かった。石油がどんが主で、それ以下が多かった。石油がどんがまた、同店から小売業者が仕入れて販売していた。私の組中に沖里五郎という人がいて、一代藤村店から油を仕入れ、毎日予にしている家へ出向いて売っていた。

り、ぼう大な土地所有者となった。
い取り、また梶野十左衛門の家を全部引取
移転で表通りから、東の通路迄いっさい買
域に特に多かったと聞いている。元警察署

睦まじく、大家族であったのを覚えている。たように思う。また、長命の家柄で皆んなんと控えていて、金銭出納だけに携ってい長十郎さんは店へ出ていても、帳場にで

# ランプ時代から降

# 紐育スタンダード石油会社と特約

期であった。 期であった。 嘉吉が二十四歳の長十郎を伴って神戸の紐 事務所を訪れたのは、明治二十七年(一八九 四)のことであった。嘉吉は五十三歳の円熟

当時のソコニー神戸所長ハッパーは羽織袴で訪れた、この四国からの客人をひどく歓待した。彼は大の親日家で日本語にも熟達し、のちに会社を退職したあと、早稲田大学の講師として日本に留まり、浮世絵の研究家として著書「ヒロシゲ・ザ・グレート」なども残している。

販売業者へと順次販売するシステムで、すべ当時の販売網は、引取者→問屋→仲買→各郎の進取の気性に富んだ眼差に魅せられた。

た。 店直販組織が採用されていたようである。 のであり、明治四十年ごろには代理

かくして、藤村商店は紐育スタンダード石油会社製品販売の「藤村石油店」として、輝かしい記念すべき第一歩を踏み出した。これは主にランプ用灯油を主体とした依託販売であった。

第吉が菜種油商として身を起こして二十四年目のことである。ソコニーが日本支店を開設したのが、明治二十六年(一八九三)。その翌年のことであるから、敏速的確な "時代の恐・と"大胆な行動力"こそ、今日の藤村石油の礎をなしているといえよう。当時、灯油は五ガロンかん入り二個の木箱当時、灯油は五ガロンかん入り二個の木箱



▼初代看板



▼二代目/藤村長十郎(昭和三十二年



し後の国内輸送にも便利であった。

である。郡中港から店までは約一キロ、地の 属契約で、現在の運輸業の前身のようなもの まで運ぶという方式であった。荷馬車は専 港へ船で輸送、 石油製品は広島県の糸崎油槽所から郡中 これを引き取り荷馬車で店

利も藤村家に味方した。

えよう。 触はまさに時宜を得、先見の明があったとい ており、嘉吉、長十郎によるソコニーへの接 ィーゼルによってディーゼル機関が発明され 余談ではあるが、この前年アメリカではデ

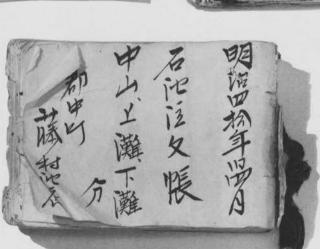
▼仕入帳(明治三十九年)



残っているが、これを任意にめくると、「明治 と利益をあげ続けた。当時の大福帳が同家に ものの藤村石油店では慎重確実な経営で着々 参拾円六十銭―」と筆書きされ、その上から 四十二年九月十日 内油、 外油入り乱れての乱売合戦はあった 三机港 上松石油八箱入



▲石油引請売捌数覚帳(明治四十四年



#### ▲長十郎の日誌(明治三十七年)

▼石油注文帳(明治四十年)

左右へ一本横線によって消されている。つまりこれは、三机港へ上松石油 (灯油)を八箱(十八リットル入り十六缶詰)三十円六十銭で販売し、入金があったことを示している。同じ年、郡中地方では電灯の使用が始まった。これを機として、船舶油、機械油、やがてモータリゼーションへと本格的な石油時代でまった。

また藤村家では嘉吉以来の経営哲学「土地投資」を長十郎は着々と進めていった。この頃の藤村家には倉庫には石油がいった。この頃の藤村家には倉庫には石油がはる年貢米も毎年一千五百俵にまでになっていた。この頃の藤村家には倉庫には石油が

後の景気到来へと突入するのである。 松山に三津浜支店を開設するに至ってその隆盛 松山に三津浜支店を開設するに至ってその隆盛

### 長十郎の人柄と商才

定価より安く購入したという。 最十郎の商才は天賦のものであった。日用

家庭では倹約家であったが、豪気でさっぱりした人情家であった。年貢なども決して無理な取りたてをするようなことをしなかった。下からは慕われ、小作人からの信望も厚かった。

店の打ちこわし、火つけなどが続き、名あるで郡中にも米騒動が起こった。連日のように大正七年(一九一八)八月、折からの不況





スタンダード石油販売店の会の記念撮影 (大正2年1月/東京)

まりもなかった。

あぶらや」である。火をつけられたらひとた

商家が次々と被害を受けた。藤村石油店は「

深さ鷹揚さが藤村家を救ったのである。 け。とゆったり構えていたという。この慈悲 ことはなかった。 家とその一族に米騒動の火の粉がふりかかる た。長十郎は鼠が米を食べているのを見ても 「鼠とて生き物、腹も減るじゃろ。ほってお しかし、日頃の長十郎の人柄がこれを助け

ピソードである。彼らが現金を必要とした時 進んで現金を藤村家に預けていた。これは、 まとまった金は、 それまでの利子をつけて用立てた。そうして いかに長十郎が信頼されていたかを物語るエ また、銀行はあったが当時、 土地買収の資金へと割り当 小作人は自ら

たとい 事な判断の時は、お札で神様にお伺いをたてた 羽織袴に身を包み歩いて行った。参拝に出か ける日にはさい銭の一文銭をきれいに塩で磨 を数足予備として持ち、往復八十里の道のりを 出向いた。雨が降ろうが、雪が降ろうがワラジ 通していない当時は四日がかりで琴平宮参拝に 家内安全の祈願のために年に数回、 朝晩は燈明をかかげ神に手を合わせた。大 長十郎は大変な信心家でもあった。 自ら風呂をたて斎戒沐浴をしたという。 一時は損をしようとも何の迷いもなか 強い信仰に貫かれた彼の選んだ道は 汽車が開

った。





気への本格的

転換が訪れた。

海外か

にかけて戦争の長期化による戦争景

ムを享受した。

石油業界も例外なく、

未曽有のブー

好調となり、

国際収支が好転した。

らの軍需物資の発注により海運界も

約して二十年目のことであった。

九

五年

(大正四) 末から翌年

うかがわれる。スタンダード社と契

▶二代目看板「紐育スタンダード石油会社」

▼三代目看板「スタンダード・ヴァキューム石油会社

表し、銀盃一個を贈り挨拶してきたのであった。

これは日本に数ある代理店の中で

もまれなことで、

名誉ある出来事で

あった。

長十郎の優れた経営手腕

か

まり嘉吉に対し、その功績をたたえ、敬意を

理代賣販約特 层村藤 スタンダード オイルカンパニー、ニューヨーク

電信受信人略号 "SOCONY" 1914年6月8日 神戸

#### 藤村 嘉吉殿 郡中

拝啓

私達は、あなたがこの数年間、タイガー油の 販売代理人として仕事をされるにおいて示さ れた。たゆまぬ努力に対し大いに賞讃を送る ものであります。又私達は、様々な事情に依 り、あなたの誠実な働きにふさわしい感謝の 意を表明することが遅れましたことを遺憾に 思っております。

よってここに、銀杯を贈呈申しあげます。 どうぞお受け下さいますように。そしてこの 私達の感謝の心が励ましともなり、あなたが、 私達の事業の為に、これからも御努力下さる ことを心から御期待申し上げます。

スタンダード オイルカンバニー。ニ 神戸支店 支店長 チャーレオ・W・アッキンソン

#### ス社から銀 杯

簡は英文であり、 ダード社から まろうとしている時、 のことがしたためられてい 吉七十三歲、 大正三年 ()九 長十郎四十 通の書簡と銀盃が届い 知人に訳させたところ 四 藤 第 ・四歳の時である。 村家あてにスタ 次世界大戦が始 た。 書 次

#### 社会の動き ②

1873 (明治6) 地祖改正 地券と交換する

1877 ( " 10) 6月 西南戦争

1878 ( " 11) 12月 伊予郡役所を郡中湊町に置く

1884 ( " 17) 3月 地祖条例制定

1886 ( " 19) 郡中銀行創立

1887 ( " 20) 9月 伊子鉄道会社創立

1889 ( # 22) 2月 大日本帝国憲法公布

1890 ( " 23) 12月 町村制実施で郡中町発足

1893 ( " 26) この年、ディーゼルエンジン発明される

1894 ( # 27) 嘉吉、長十郎父子、ニューヨークスタン ダード石油神戸事務所を訪ねる

8月 日清戦争始まる

1895 ( " 28) 同社と販売契約しランプ用灯油主体の依 託販売を開始

4月 夏目漱石、松山中学に赴任

10月 松山電灯会社設立

1896 ( " 29) 7月 南子鉄道、松山一郡中間が開通

1902 ( # 35) 3 代目藤村長雄誕生

1904 ( " 37) 2月 日露戦争始まる 9月 ロシア人捕慮、郡中五色浜彩浜館 に遊ぶ

1905 ( " 38) 4月 伊予水力電気の電灯6,000灯祝賀会 を開催

1909 ( " 42) 郡中地方でも電灯の使用始まる

1911 ( 〃 44) 1月 松山-堀江間に自動車旅客運送始 まる

12月 松山ガス開業

1913 (大正2) 2月 松山電気軌道が電灯電気事業開始

1914 ( " 3) 藤村石油店、米スタンダード社から功績を たたえられ、銀杯を贈られる 嘉吉73歳 7月 第1次世界大戦勃発

1916 ( " 5) 11月 伊予自動車、八幡浜一大洲一郡中 間の旅客輸送開始

1917 ( " 6) 伊予鉄道電気㈱電気部の発電能力1,710 kW、点灯数5万3,400余灯 この年、郡中花かつお製造始まる

1918 ( " 7) 8月 郡中町でも米騒動

1922 ( " 11) 嘉吉翁永眠 82歳

1923 ( " 12) 3月 伊予自動車と内子自動車が内子一 郡中間の運賃を2円90銭に値下げし競争 9月 関東大震災

1924 ( 〃 13) 三津一三机間に豊安丸就航、郡中港に寄 港しはじめる

1926 ( " 15) 9月 4代目藤村栄一誕生

1930 (昭和5) 2月 予讃線、松山一郡中間開通

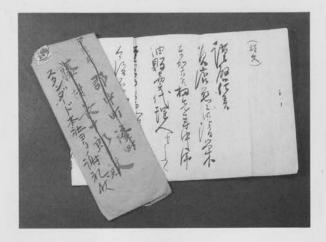




0 時 Ó 感謝状とその



本国 時代を迎える 内では自 車台





かけ、

藤村石油の礎を築いた創業者の永遠の

眠りであった。

Ŧ

オイル

小

史

今も残る藤村家の屋敷、現在は伊予藤村石油㈱の事務所に使用されている

モンドで小商人の子として生まれ、 を興した同じ年、不思議にも海の向こうのアメ さにランプ時代の幕開けである。 リカではロックフェラーがオハイオ・スタン 明治 ード・オイル・カンパニーを創立した。 二十歳のとき友人と小さな商事会社を興 ックフェラーは、 三年、 藤村嘉吉が、菜種油商として身 ニューヨーク州リッ 一八五九 チ

あった。 現会長である。 と結婚する。神の導きによるものか否かは定 大小の影響を及ぼす。意義深いめぐり会いで 本で二番目の民間経営鉄道である伊予鉄道の かではないが、 大正十二年 (一九二四)、 のちに現在の藤村石油㈱に、 房子の実弟、 長男・長雄は房 新野進一郎は日 子

あった。 栄一が誕生する。長十郎はこの時五十六歳で た。そのかいあってか、 家族は長雄に一日も早く男子生誕を期待し 三代目・長雄はどちらかといえば学究肌で 商売の方は長く父親長十郎に任せた。 郡中町の助役として町の発展に働 大正十五年に四代目

の生涯を閉じた。藩政期から明治の新時代に あった。長十郎はこの孫に商売をみっちり教 その二年前 (大正十一年) 嘉吉は静かにそ

#### 3 社会の動き

1932 (昭和7) 5月 5・15事件起こる

1934 ( " 9) 4月 郡中港、運輸省指定港となる 県内自動車保有台数1,075台

2・26事件起こる 1936 ( " 11) 2月

1937 ( // 12) 7月 日中戦争開始

1938 ( " 13) 4月 県下いっせいに防空訓練

伊子鉄道、郡中一郡中港間開通 1939 ( " 14) 5月 9月 第2次世界大戦勃発

1941 ( " 16) 12月 太平洋戦争始まる

1943 ( " 18) 石油専売法により統制、実質上家業は休 業となる

1944 ( # 19) 6月 丸善石油松山製油所が操業開始

1945 ( " 20) 7月 松山空襲 無条件降伏 8月

日本国憲法公布 1946 ( # 21) 11月

1947 ( " 22) 3月 農地改革開始、藤村家の土地も没 収される

1949 ( # 24) 8月 石油統制解除、営業再開、藤村栄一 24歳で代表者となる ス社と取引再開

1950 ( " 25) 朝鮮特需景気起こる

5月 伊予鉄郡中線電化

1951 ( " 26) 5月 四国電力が新発足

1955 ( " 30) 1月 伊予郡 1 町 3 村が合併し、伊予市 が発足

> 4月 大野ヶ原開拓地にも電灯ともる 12月 松山市一番町・大街道交差点に自 動信号機登場

1956 ( # 31) 2月 松山-大阪間定期航空便開始 藤 村石油、航空燃料の納入始める

1957 ( " 32) アメリカの業界紙「ランプ」に藤村家が 紹介される

1958 ( " 33) 10月 藤村長十郎永眠 88歳

1959 ( # 34) この年、岩戸景気

1960 ( " 35) 7月 藤村石油株式会社設立

1961 ( " 36) 9月 松山-広島間の定期航空路開設 この年、スタンダードバキューム石油会 社、モービル石油会社とエッソスタンダ ード石油会社に分割、藤村石油はモービ ル石油会社と代理店契約

1962 ( " 37) 12月 松山-東京間全日空航路開通

国道11号線完工 1964 ( " 39) 3月

> 藤村石油、松山市本町に本社移転 10月

東京オリンピック

1965 ( " 40) 7月 三津浜港にフェリー基地完成



は 工 ス トとその息 子がそのまま

社形態をとって社長 だいに出資者も増 油

八六三

副業としてクリ

られるようになる 油製造に着 滑油としてすぐれ 空中で蒸留す ラー 丰 チ ボ その 9 際に生じる残留物が機械の てい 七九 I は 収 に設立され ることに着目 8 ス 目 トにより を かしヴァ 向 利 け 原油を真 0 た 174 一分の " 7 3

ンド地

0

売を担当した。

8

 $\exists$ 

クとニ

12 0 始 祖

たの

7

は

7

石 2 油会社

たが の椅子に就任することに 八七〇年には株式会

九

五%を支配するスタン

4

年には、

メリ

カ

国

内

の精油

所

トを組織することになり、

さらに八月に

であるスタンダ

12 0)

カ

1

称

7

が

その

なか

から、

ビル 才

もう

0

祖

コ 二

ことになった。

とくに日

本など東洋全般の販売を行う

ようやく近代化の灯をとも

世

および 副 た経営を行 社 長の地位にとどまり社名を継承

莫大な未開発の市場であった。戦いをくり広げていたアメリカ灯油にとって、いかのでは、ロシア灯油と激しい

一八九三年、アジアを担当することになったソコニーは、一連のアジア基地を設立し、 監年のはじめまでにソコニー支店や特約代理 とが、上海、カルカッタ、ボンベイ、香港、 情浜、神戸、長崎、シンガポール、バタビア

ちで、 仲買人に売られた。 ド・グループの各製油所から委託販売のかた 動にはまったく支障はなかった。 ジー州のスタンダード・オイル社がトラスト 油や潤滑油は、 トラストの解散を命じたため、 ハイオ高等裁判所は、 持株会社となった。 ところで、 マン独占禁止法が発効し、 各地の支店または代理店へ送られた灯 アメリカでは一八九〇年にシャ そこから再び地方の卸売商や スタンダード・オイル しかし、 一八九二年にオ グループの活 ニュージャー スタンダー

一八九三年、ソコニーは横浜居留地八番に支店を開設した。日本では紐育スタンダード石油会社と呼ばれることになり、「オランダ屋敷」あるいは「八番館」「蘭八」と呼ばれる木敷」あるいは「八番館」「蘭八」と呼ばれる木

ソコニーは、間もなく神戸居留地五十六番 と長崎大浦九番に、それぞれ営業所を開き、と長崎大浦九番に、それぞれ営業所を開き、

ソコニーの日本進出と時を同じくして、ヴ

やがて

九

〇四年日

露戦争がぼっ発し、

翌年

ピンドルオイルで断然群を抜いていた。ームはとりわけ、シリンダーオイルおよびスームはとりわけ、シリンダーオイルおよびスァキューム・オイル・カンパニーも日本支店

ど広く普及していた。 機械油 ○年代のはじめからである が単独で使われるようになったのは、 と)は、 怪獣などの形に作った屋根の水の落し口のこ イル(ゴシック様式の建物に用いられる鬼や 使いはじめたのは一九〇一 であった。そのトレード モービルオイルは、 ヴァキームが商標に、モービルオイル。 (潤滑油)の代名詞として使われるほ 一九〇四年に採用された。 その接頭語 "モ わが国でも戦前までは マークであるガーゴ 年 (明治三十四) ーピル 九三 を

二○世紀に入ると、石油史上においても新たな時代が訪れる。各種内燃機関 - 焼玉エンジン、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの実用化により、石油は燃料油時代を迎えることになったのである。

これはわが国においても次第に変化をもたらし、明治末期から揮発油(ガソリン) 軽油、 ちし、明治末期から揮発油(ガソリン) 軽油、 これら石油製品の輸入は、年を追うごとた。これら石油製品の輸入は、年を追うごと

として日米礦油合資会社も設立された。一八九八年には鉱油(機械油)の販売を目的一八九八年には鉱油(機械油)の販売を目的が、船間沿油の販売に力を入れた。これより先、船の大力では鉱油(機械油)の販売を目的

ポーツマス条約を締結、日本中が勝利の美酒に酔いしれた。戦争景気も手伝い、代理商は一九〇八年ソコニーはわが国の灯油市場における競争の激化に対処するため、思い切った販売方針の改革を実施した。

タイガー (虎印) 灯油のバルク輸入を開始しに代わり、カリフォルニアからタンカーによるに代わり、カリフォルニアからタンカーによる

店の権威を高めた。

店制度による直接販売方式を採用した。わが国における特約店(代理店)制度は、こうし国における特約店(代理店)制度は、こうして始まった。代理店の看板はそれだけでそのため、販売組織は中継販売を廃止し、代理

## スタンバックの設立

収・合併)が繰り返されていた。 後半(昭和初頭)まで、世界は慢性的不況に後半(昭和初頭)まで、世界は慢性的不況に

一九二九)石油は大暴落するに至った。かかわらず、市況は悪化を続け、昭和四年( 犯に追い打ちをかけた。石油需要の増加にも

なった。次いで一九三三年、ソコニー・ヴァ 落に端を発した。アメリカ大恐慌の嵐が吹き 荒れた年である。大恐慌は全世界に広がった。 そして一九三一年、まずソコニーとヴァキュームが合併、「ソコニー・ヴァキュームが合併、「ソコニー・ヴァキュームが合併、「ソコニー・ヴァキュームが合併、「ソコニー・ヴァ

月、 12 かぎ かず の成立 設立 オイ i ムとスタンダー 中核となって活動を続けたのである。 を意味するスタンバ 石油が発足するまで、 7 「スタンダ H 本支社は、 」(略称スタ 間 0 協 27 調と 九 ヴァ クの誕生であ 国 六 H 際カ 18 本の ル 3

◀ 昭和初期のスタンダード社のチラシ

#### ▼昭和15年の業界紙





▲藤村石油店からス社に差入れた担保引合書(昭和7年)

# **爬村長上郎翁を語る**



一一一大学を表示している。 を紹めた活動のない、 にいざっぱりした着物に角帯をきちんと 頭に小ざっぱりした着物に角帯をきちんと 頭に小ざっぱりした着物に角帯をきちんと 頭に小ざっぱりした着物に角帯をきりり と合と計り売る。帳場にはこれまた質素で はあるが仕立てのよい着物に角帯をきりり と締めた穏やかな笑顔の叔父・長十郎が坐 と締めた穏やかな笑顔の叔父・長十郎が坐

宮脇葉氏(明治四十三年生まれ)、元四国宮脇華氏(大正四年生まれ)、元四国電工専宮脇華氏(大正四年生まれ)、元四国電工専の記憶の片隅には、こんな風景が残っているという。

けるのが嬉しかった。夏休みは特に楽しみ る。幼い二人は、この一恵さんに連れられ で何かあると郡中の「油屋」に遊びに出か は、この一恵さんに連れられ

夏とやよくことかって二人こ、家でまるので、一日中海水浴を楽しんだ。

本当の商売人とは、この叔父のことだ一

度も見たことがなかった。顔色一つ変えず、 を見たことがなかった。顔色一つ変えず、 を見たことがなかった。顔色一つ変えず、 をも見たことがなかった。顔色一つ変えず、 という境地であった。

叔父や叔母とて人間である。長いつき合いの中には、意見が合わなかったり、人間の嫌な部分も見えてくる。しかし、この長十郎叔父に関する限り、長じて想い出しても、良い思い出しか出てこないという。淡々として温厚で、抱擁力のある人だっ淡々として温厚で、抱擁力のある人だっ

出しをするようなことはなかった。まず、よく世話をした。弟の学資、姉妹のまず、よく世話をした。弟の学資、姉妹の

早氏が戦後、ある事業のことで叔父を訪れた時「商売は短気をおこしたらいかん。牛のよだれのように気長に行け。決断の時、目のまだれのように気長に行け。決断の時、目先きのことで急いだらいかん。慎重に辺りを見回して、一番機の熟したときを見きわめよ」と論された。この言葉が今日の皐

明治人間の気骨がこの叔父にはあった。と、両氏は口を揃えて語ってくれた。 頭は低く、穏やかだが、ともかく駄目が を程の決断もやってのける、合理的で無駄 がでんとすわっていて、驚 は、惜しみなく金をふるまう。まことに、 が、情しみなく金をふるまう。まことに、

栄一社長が、戦後藤村石油を再開する際、 七九歳の長十郎翁が、どこから調達して きたのか、自動車を一台どんと購入してき たのには驚かされたという。先が見え、商 売の投資は惜しまない人柄がうかがわれる。 両氏に、長十郎翁を一言で表現するとすれ ばどうかと問うと、「長十郎翁を知りたいの ならば、今の栄一君を見ればいい。感じとい い、タイプといい、よく似ている」との答 が即座に返ってきた……。



▲在りし日の長十郎夫妻(昭和32年 長十郎87歳・米人カメラマン、ヨゼフ・ブライテンバック撮影)

# 長雄のこと

房子は語る。 するようなことは一度もなかったと、妻の で平和を好み、 (雄は静かな人であった。 いつも穏やか 声を荒げて人といさかいを

ないからと、 戦後大部分の田畑は農地開放のためになく の管理のため、実地調査をして正確な台帳 していた。長雄は、 辺、また松山市やその隣村などに沢山所有 なく年々田畑を購入し、 は火の心配があるが、田畑にはその心配は 取立や借家の管理などが任されていた。 しかも地主の若旦那の長雄には、小作米の 活に事欠くことはなく、 を作りあげていた。その苦労も空しく、終 当時は小作米が沢山入っていたため、生 父長十郎は、 人に勧められると断ることも 日頃から不動産でも山林に その膨れた農地や宅地 商家の跡取りで、 郡中町及びその周

なってしまったのである。

である。

のことであった。 の目には世間の醜悪な事柄は興味の対象外 びや賭け事などとは一切無縁であった。彼 長雄は、 地主の若旦那にありがちな女遊

といって、 に騒ぐことより、 くの人望を集めた。これは何よりの社会勉 努めたが、真面目で穏やかな彼の性格は多 た。また、旅の本当の楽しさは一人旅ある あり、おしげもなく関係書籍を買込んでい をした。ことに歴史書にはたいへん興味が も脈々と流れていた。当時としてはかなり 強であったと、彼自身が後日語っている。 んで松山まで観に出かけた。大勢で賑やか ハイカラなセンスの持主で、外国映画を好 戦前、 藤村家に流れる進取の血は、長雄の中に 郡中町から乞われるままに助役を 思いつくと一人で出かけたもの 時間があれば好んで読書

> 腕前であった。弓道も学生時代から好きだ 若 そ物の上手なれの感を深くした。 ったのでよく楽しんでいた。何事も好きこ い頃からの修練を積んでいたので相当な 長雄は趣味の人でもあった。 特に謡曲は

することになる。 を社長として息子をもりたて、指導手助け 業状態が続き、戦後再開されると長男栄一 下で過ごし、戦時中は統制のため家業は休 若き日は、 商売上手な父長十郎の庇護の

院で帰らぬ人となったのである。享年六十 に胃病は手遅れの状態で手術も不可能だっ あり忍びよる病魔に気付かなかった。すで ていたので、家族も、また本人にも油断が 長雄は、常日頃より身体には自信を持っ 昭和三十八年春三月、 岡山大学付属病

七歳

# 戦後の発展

## 苦しい石油統制時代

太平洋戦争の終戦の年、十一月、GHQ内部に石油顧問団(PAG)が設置され、戦前の6日本で営業していたスタンバックなどから石油専門家が派遣された。このPAGのもとに石油配給公団による価格統制などが行わとに石油配給公団による価格統制などが行われて。

石油の需要、供給は一切連合軍の支配下に置かれ、配給もこの石油公団がとりしきっていた。公団指定の販売業者は二十二年十一月いた。公団指定の販売業者は二十二年十一月は一\*\*はあたりガソリン七千九百円、灯油七は一\*\*はあたりガソリンモが、手二百四十円、軽油六千二百十円であったが、販売業者のガソリン手数料はわずか百二十円。取り扱い量も少なかったか、経営的にはとても成り立たなかった。

制下にあった石油産業に対し、連合軍の態度戦前、戦中を通じ軍需産業として軍部の統

講和条約の発効によって、ようやく価格統制然高率のままであった。二十七年四月、対日

てくるのは二十三年ごろからである。政策、石油政策がアメリカによって緩和されは極めて厳しいものであった。この対日占領

石油輸入基地の民営復帰と公団方式による配給統制廃止はスタンバック、ライジングサン配会統制廃止はスタンバック、ライジングサンを折りから外資提携の必要に迫られていたわな折りから外資提携の必要に迫られていたわ

はGHQの手で継続された。ガソリン税は依なに営業を再開した。しかし、石油統制価格をに営業を再開した。しかし、石油統制価格をに営業を再開した。しかし、石油統制価格をに営業を再開した。しかし、石油統制価格をに営業を再開した。しかし、石油統制価格をに営業を再開した。しかし、石油統制価格をに営業を再開した。しかし、石油統制価格をに営業を再開した。カソリン税は依めに営業を再開した。カソリン税は依めに営業を再開した。カソリン税は依めに営業を再開した。カソリン税は依めに対している。

時代を迎えるのである。配給統制が撤廃され、戦後はじめて自由販売

# 栄一代表者となる営業再開、

藤村石油店にとっても、この時期は苦難と もあったが、長十郎はキッパリ断った。そう もあったが、長十郎はキッパリ断った。そう して店は潔く休業とした。この英断は長十郎 かねてより信心の「神のお告げ」だったという。 やがて昭和二十年、長かった戦争も終わりを 告げた。日本は無条件降伏し、GHQの農地 改革により、藤村家も土地のほとんどを没収さ れてしまった。一千五百俵の年貢も数十町歩 の土地も一瞬のうちに吹き飛んでしまった。 特に松山市の大手町、古町等の価値の高 い農地の取り上げは、さすがの長十郎翁にと っても大きなショックであった。戦後の食料



ム社三津浜油槽所開所記念(昭和27年 前列左から5人目が長十郎、中列左から5人目が栄一)

々調達するのに大変苦労した。 かつては、あれほど蔵にあった米も、 藤村家の着物や調度品も食料に変わっ 少

重来を期していた。 昭和二十二年、民間貿易は再開され、 石油統制は解除された。

芸化学科)に進んだ栄一は、家の窮状を見て

鹿児島高等農林専門学校(現鹿児島大学農

「僕が学校を出たら」と歯を食いしばり捲土

のである。 藤村石油店再建の道を歩み始めることになる 社と取引を開始した時と奇しくも同じ年齢、 くして栄一二十四歳、長十郎がスタンダード 土地は失ったが石油はもう一度やれる。 か

二十九年、この給油所を「株式会社ペガサス 松山発売所」として経営する。 油所の運営を暫定的に行うことになった。 スタンダード・ヴァキューム石油会社松山給 敢然と立ち上がっていった。 こうして、藤村石油は戦後の廃虚の中から 又、昭和二十八年十二月、松山市一番町甲四、



▶若き日の藤村栄



▲開設当時の一番町給油所は㈱ペガサス松山発売所と呼んでいた(昭和29年)





用していたとの記録が残っている。 利用されることになった。 ランプ用灯油、潤滑油としての石油が広く グが世界初の製油所を建設。これによりヤ 心であった。 場するまではろうそく中心、その後一九世 なったのは照明用としてである。ランプが登 の記録となっている。 という趣旨の表記があり、これが日本最古 年(六六八年)燃ゆる土と燃ゆる水を献ず」 古代ギリシャ、ローマでも石油を武器に使 アルト舗装をしていたという。そのほか、 てきた。たとえば、メソポタミアでは、紀 ングは石油精製法の開祖となった。以後、 紀半ばまでの灯火は菜種油など植物油が中 元前三二〇〇年にシュメール人がアスフ 日本では、日本書記に「天智天皇即位の 原油発掘 石油が初めて世界的に用いられるように 人類は有史以前から石油とかかわりを持つ 一八四八年、英国の」・ヤン

の社名である。 ヨークの弁護師ビセルによって創立され、 「ペンシルベニア・ロック・オイル」がそ 一八五四年、世界初の石油会社がニュー

を促した。 の時代が到来。 ドウィン・ドレークの井戸からである。「ド 油発掘に成功。ビセル配下の現場責任者エ レークの井戸」の成功は近代石油産業の第 イタスピル近くで初めて井戸掘りによる原 一歩である。やがて米国にオイル・ラッシュ 一八五九年八月二十八日、アメリカ、タ 同時に世界各国の油田開発

# 航空燃料の納入はじまる

ンド・ダブ機が飛んだ。わが国初の定期便 昭和二十六年、東京 大阪間にデ・ハビラ

ことは言うまでもない れた信用がこの燃料納入のきっかけとなった 燃料の納入が始まる。老舗の看板と長年培わ た。この年から当社の発展の一翼を担う航空 大阪間に極東航空の定期航空路が開設され そして三年後の昭和三十一年三月、 松山

年間は赤字であった。就航便数が少ないため ビルの前身、 カンパニーの代行としての出発であった。 を飛んだ。燃料納入は四〇〇リットル、 プロペラ機の「ダブ」「ヘロン」などが松山上空 当社にとって、航空燃料納入の最初の二十 当時は一日一便、航空機ファンには懐しい ソコニー・モービル・オイル・ モー

> かわらず燃料納入を続けたのは、栄一の長男 に、諸経費の方がオーバーしていた。にもか 泰雄にまつわるエピソードがある。

えたという。 も藤村石油の名を留めてくれていれば。と考 足となっているであろう。 彼の口からこの話を聞いた栄一社長は「この 憧れである。その飛行機に「藤村石油」と大 のことである。子供達にとって飛行機は永遠の 子達が大きくなるごろは飛行機はもう国民の 友達に泰雄は晴れがましい気持ちであった。 きく書かれた給油車が燃料を給油していた。 「あっ藤村君とこの車だ」と口々にさわぐ級 彼が幼稚園から松山空港を見学に行った時 幼い心にわずかで

る。水分、ゴミを特に嫌う燃料補給は細心の 航空燃料納入は少しのミスも事故につなが

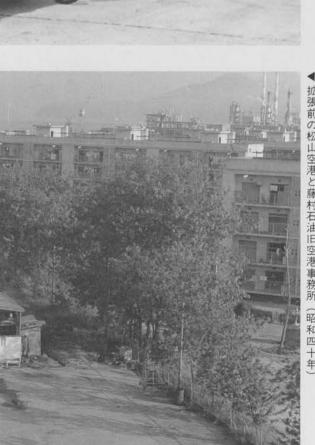
> される。 注意と技術が必要とされ、 品質のよさが要求

長十郎ゆずりの先見の明がここに息づいてい たのである。 高まる。この「信用」こそ商売の基本である。 感を深めれば、 空港の藤村石油の名を見て当社に対する信頼 まだ限られたクラスの人達であった。彼らが 当時、 飛行機を利用するのは愛媛でもまだ 言わずとも藤村石油の評価は

至るのである。 就航した。この頃からやっと採算にのり、 がて現在の年間二万五千キロリットル納入に 昭和四十七年には松山にもジェット機が初

と信用により、 きている 石油は燃料の品質管理徹底と給油コスト低減 松山空港に離着陸する全ての航空機に藤村 空港開港以来、 納入を続けて





▼ 拡張前の松山空港と藤村石油旧空港事務所 (昭和四十年)



環で非常な好評を博した。サス松山発売所としての『モービロイル増販運動』の一しての松山上空一周飛行は世間を驚かせた。これはペガロの松山上空一周飛行は世間を驚かせた。これはペガ

ICE 火克斯勒



# 米業界誌「ザ・ランプ」に紹介される

介された。それは昭和三十二年の一九五七 に藤村長十郎翁と栄一社長が写真入りで紹 一五八冬期号であった。 アメリカ最大の石油業界誌「ザ・ランプ」

は経済評論家ウィルフレッド・オーエン氏 と題する特集である。特集記事を書いたの る調査のため日本政府より招きを受け来日 で、氏は日本の輸送機関と経済問題に関す 記事は、「日本 古きものと新しきもの」

> れ、代理店活動などを入念にカメラに収め マンとして鳴らしていたヨゼフ・ブライテ ンバック氏が撮影した。同氏は藤村家を訪 写真は、当時アメリカで指折りのカメラ

添えられた説明には「藤村長十郎氏は一八 九三年に伊予でスタンダード社の製品を売

各地を取材し綿密なレポートを書いた。

藤村長十郎翁と栄一社長が並んだ写真に

栄一社長三十二歳であった。 ている」とある。当時、長十郎翁八十七歳 ヴァキューム給油所と地方の販売を担当し 買し始めた。彼の孫は、現在スタンダード・

て撮影したと見られる、小型トラクターを 真は約二十枚。この中には、伊予市におい れている。「ザ・ランプ」誌の日本紹介写 東亜燃料工業和歌山精製所の写真が掲げら 使う農夫」の写真も入っている。 次のページには、ス社と提携関係にある

りをしている)は、当時スタンダードバキ も掲載されている。 スタンバック・ディーラー・ニュース」に ーム・オイル横浜支社が発行していた「 ブライテンバック氏の撮った長十郎翁の 伊予郡中の海岸風景(子供たちが釣

題」など多数の著書を発表しているが、こ 心を抱いている。 の日本ルポ、においても交通問題に強い オーエン氏は、主要都市における輸送問 関

ーの波、 さえある」と述べ、マイカー・ドライバー の多いこと、 タリゼーションの高まりを見せていた時期 日本は、 きを声をあげている。昭和三十年代初期の たとえば「日本の経済的進歩は感動的で トラック、オートバイの洪水に驚 急激な経済発展とそれに伴うモー 雑踏を縫うように走るタクシ





▶「ザ・ランプ」 一九五七—五八冬期号表紙

まのあたりにしたわけである。

オーエン氏は、この当時(昭和三十二年ごろ)の日本を見聞して、教育問題、工業、ごろ)の日本を見聞して、教育問題、工業、問題業、造船、観光など幅広い視点から日本を分析している。その特集記事から、石本を分析している。その特集記事から、石中によう。

THE OLD & THE NEW

When channeling their review channels have been considered as the considered and the considered as th

記事内容

「日本の自動車産業、トラック製造などは先進国の仲間入りをしている。(略)よりするために日本人がより多くの石油を必要するために日本人がより多くの石油を必要としているのがわかる。現在の石油製精能としているのがわかる。現在の石油製精能力は戦中の最高時の四倍である。そして石油製品の消費は二十年前の五倍になっている。」

機関が急速に発展したことで石油は必要不行五百人の販売を約三百の大規模代理店と約、全て日本人だ。(略)スタンダードヴァキが、全て日本人だ。(略)スタンダードヴァキが、全て日本人だ。(略)スタンダードヴァキが、全て日本人だ。(略)スタンダードヴァキが、全て日本人だ。(略)スタンダードヴァキューム社は、現在ほどは最も多くの投資をした。車による輸送では最も多くの投資をした。

した。と輸送状況を皮肉っている。が不十分なのに自動車優位意識だけが発達が不十分なのに自動車優位意識だけが発達

り発展するにはアメリカ市場をもっと開 とまで記述している。 米経済摩擦の状況を考えると、これもまた する必要があるとも述べている。 おとくいさん。であること、 たレポー ら三輪車が、「バタバタ」と呼ばれているこ ている。 クを所有し、 "皮肉"なことと言わざるを得ない。 多くの民間企業が自社専用の三輪トラッ そして、 トとしては実に綿密な内容を持 走る時の音をもじって、 日本がアメリカの良き。 日本について書かれ 日本経済がよ 今日の それ H 拓

### ▼米人カメラマン・ヨゼフ・ブライテンバック氏が撮影した 藤村家の人々



# スタンバック、モービルとエッソに分割

日本法人モービル石油の設立

一九三三年(昭和八)、設立されたスタンダード・ヴァキューム石油会社(略称スタンバック)は、一九六一年(昭和三十六)、解体された。中東での原油生産と精製能力増加によった。中東での原油生産と精製能力増加によった。中東での原油生産と精製能力増加によった。中東での原油生産と精製能力増加によった。

スタンバックはソコニー・モービルとスタンダード・ニュージャージーが折半出資している企業体だったが、資産、事業を両社でほぼ等分に分割し再編成することになった。この結果、ソコニー・モービルはモービル・ペトロリアム社、ニュージャージーはエッソ・トースタン社をそれぞれ新設する。

親会社の解体によりスタンバック日本支社 事業分割については、エッソとモービル間で 分割比率が再三話し合われた。当初はモービル側に不利な分割案であったが、七○年に及 ぶ日本での伝統とユーザーの信頼感を大切に するモービル側の主張が通り等分分割となっ た。

誕生した。新会社の資本金は四○億六千六百として日本法人「モービル石油株式会社」が大手町の東京マネジメント・オフィスを本社が

大万円であった。営業本社は横浜駅西口、相 八六五店をスタンバック日本支社から引き継いだ。そしてモービルのシンボルともいうべき。ペガサス。マークも引き続きモービルが掲げることになった。エッソは昨日まで同一企業体翼下の「友」であったが、今日からはライバルとなったのである。

ル石油株式会社と代理店契約を継続すること となった。翌年には現本社所在地に㈱ペガサ となった。翌年には現本社所在地に㈱ペガサ



▲スタンダードヴァキューム社からの感謝状



### 社会の動き 4

1966 (昭和41) 11月 全日空機、松山沖に墜落 この年、いざなぎ景気始まる

1967 ( " 42) 8月 国道33号線完工

1968 ( # 43) 6月 松山空港ターミナルビル完成 7月 四国電力原発建設地に伊方町決定

1970 ( " 45) 3月 国道56号線、法華津トンネル、犬 寄トンネル開通

9月 石鎚スカイライン完成

この年、4世帯に1台のマイカー時代へ

1971 ( " 46) 4月 国道197号線、夜昼トンネル開通 子讃線に特急登場

4月 松山空港にジェット機初就航

7月 田中内閣発足

1973 ( " 48) 2月 諸物価いっせい値上げ開始、石油 製品400円が450円に

> 8月 全日空ボーイング727型機が松山 空港に乗り入れ

10月 第4次中東戦争起こる

11月 ガソリンスタンドの日・祭日休業 石油危機で本四橋起工延期

12月 政府、石油緊急事態告示 この年、第1次オイルショック

1974 ( " 49) 1月 石油危機による電力規制、松山市 内のネオン消える 灯油、LPガス価格 監視員初出動

> 6月 松山空港、特定空港に指定 この年、オイルショックの余波続く

1975 ( " 50) 1月 藤村石油、モービル石油から代理 店契約80年で表彰される

1976 ( # 51) この年、県内の企業倒産、史上最高

1977 ( " 52) 2月 伊方原発送電開始 この年、円高不況で県内の倒産史上最悪

1978 ( " 53) 12月 松山-鹿児島間空路開設 この年、不況定着

1980 ( # 55) 3月 初の石油地下備蓄へ菊間太陽石油 で実証プラント起工

1982 ( " 57) 11月 中曽根内閣発足

1983 ( " 58) 9月 大韓航空機事件起こる

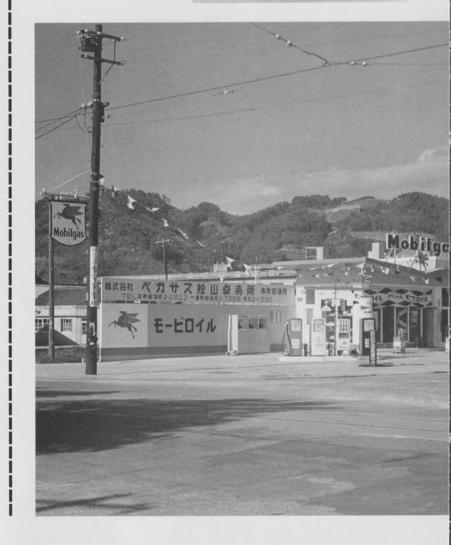
1984 ( " 59) 5月 松山市の人口42万人を突破

1985 ( " 60) 1月 藤村石油、モービル石油との代理 店契約90年で表彰される 3月 松山テレトピア構想本格化、ニュ

ーメディア時代へ

一人社 から 通







▲完成した伊予の貯蔵タンク(昭和34年)

# 藤村石油株式会社設立

の快進撃が開始される。 しての新しいスタートであり、 には栄一が就任した。近代的企業経営を目指 立された。資本金二百五十万円、 油店から、法人組織の藤村石油株式会社が設 昭和三十五年、 伊予市湊町に従来の藤村石 以後藤村石油 代表取締役

前後するが、昭和三十二年十二月、岩谷産

油は着実な歩みを続けるのである。 を合わせ持った栄一社長のリードで、 神と厳格な経営哲学、

理業もすでにスタートを切っていた。 業株式会社との契約でプロパンガス販売の代 嘉吉の守りの経営理念、 長十郎の進取の精

父・長雄の学究的資質 藤村石 なった。 して世界中の石油市場を駆けめぐることに あり、やがてソコニーのシンボルマークと 員のコンテストで決定した。

### 日本 0 石油事情

ンダ商館だけが輸入の窓口だった。 ものである。鎖国時代のことであり、 録は、長崎出島の寛文八年(一六六八)の 日本に外国の石油が輸入された最初の記 オラ

のスタンダード・オイルの製品を主体にし されるまで日本市場はロックフェラー傘下 十一年(一八八八)にロシアの灯油が輸入 どが記録されるようになったが、明治二 た完全なアメリカ灯油の独壇場だった。 明治になって明確に輸入量、仕入地な

油したというわが国初の石油会社は石坂 周造氏による長野石炭油会社。 いて手掘法で一日七~九キロリットルも出 二年ごろのこと。新潟(当時は越後)にお に設立されている。 日本で初めて石油が採掘されたのは明治 明治四年

### 赤馬印ペガサス

作によるブランド名。世界中のソコニー ガソリン販売課長とL・F・ジョルダの合 れのこと。ソコニー横浜支店の滝本金太郎 に登場したのは大正十四年(一九二五)暮 真紅の馬印「ペガサス」が、わが国市場

っていたが、これを赤馬にしたのは滝本で 最初は『天馬』の簡単な線描を商標に使

### 土地への投資

祖々父・嘉吉以来の口伝「土地を持つべし」を基本に、若き栄一社長は着々と土地買収を行い、営業所を開設していった。後の本社となる松山市本町の土地買収に関してこんなエ

一社長は、城北にも営業所を、と考えた。営業所の距離は二キロが理想である。そこで本 町六丁目に目をつけた。当時、まだ現在の中 央通りは開通していなかったが、絶好の角地 であったため土地入手をめぐってライバルは 多かった。土地の持ち主は誰が来ようとも首

った。
そこへ三十歳そこそこの栄一社長が乗り込んでいった。持ち主は驚いた。彼の若さに加んでいった。持ち主は驚いた。彼の若さに加

した。帰って父・長雄にしかられたという。かなりの値段ではあったが栄一社長は決断段をつけてきた。即答すれば売るという。

が、後に、その土地の隣人が「あぶらやがも買ってくれ」と申し出て来た。そこは祖父も買ってくれ」と申し出て来た。そこは祖父ゆずりの駆け引きのうまさ。先に買収した土地が高かった分、安く譲り受けたという。これによって本社の土地の格好は、かなり良くなった。

栄一社長は、土地購入の際、未知の要素の

五十一パーセントの可能性にかける。百パー

天山給油所の設置。のちにバイパスが走る ことになる保免営業所。開設時、周囲に民家 が全くなかった吾川給油所。交通の要衝であ ることが第一条件のS・Sにとって、ここにも また栄一社長の驚くべき商才と先見の明がう かがわれる。

## 松山市に本社移転

昭和三十八年七月、㈱ペガサス松山発売所を吸収し、同時に本社を伊予市から松山市一番町に移した。これに伴って従来の本社を伊子支店とし、一番町、本町をそれぞれ営業所とした。資本金は二百五十万円から七百万円に増資する。

都である松山市への移転は不可決のものであ藤村石油の今後の飛躍的発展のためにも、県藤村石油の今後の飛躍的発展のためにも、県

しい伸びをみせていた。当時の日本は池田内閣が所得倍増計画をうた

昭和三十九年十月、かねてから増改築中で路が開通、航空機燃料も需要を増してくる。



び一番町から現在の本町へ移転した。あった本町営業所社屋完成に伴い、本社を再あった本町営業所社屋完成に伴い、本社を再

位置し、 る この 通 城 1) 0 年 北方面の中心地点でもある。 本社・本町営業所は、 と国道一九六号線が交差する地点に 市 県 0 内の動脈である国道 商業圏にも近い交通の 三津浜街道 要衝であ 号線 中

藤村栄一社長は伊予商工会議所の副会頭に も就任し、地域経済界のリーダーとして活躍

として躍進を続けてい

ゆくのである。 伸 ·億円 この を突破していた。 ションの発達、 と時代の流れと共に藤村 の県内有力企業へと 時 期 全国での給油所在籍数は やがて急激なモー ざなぎ景気、 大発展をとげて 石油は 国民 年商数 一所得の タリ 万

## 代理店70年で表彰

完工。

これにより県の自動車保有数は急激な

びを示し、

それと共に藤村

石油もSS企業

昭和四十年、松山市では「暮らしから宇宙まで」をテーマに松山博が開催された。輝ける愛媛県の躍進の姿と日本産業界の粋、宇宙

きた。代理店契約七十周年を表彰す 次黄金時代を受けて、 築いたラン 事である。 るものである。 0 石油会社から英文の盾が送ら この年、 到来を告げるものであ このことは嘉吉・長十郎 プ時代、 藤村石油では再びモー 嘉吉の表彰に次ぐ慶 藤村石油 第 一次黄金 の第 n

ョンの増設を図っていく。 藤村石油では、これより一年に一 藤村石油では、これより一年に一

七〇年代は四世帯に一

台が

マイ



## 石油物

## リンステーショ

力

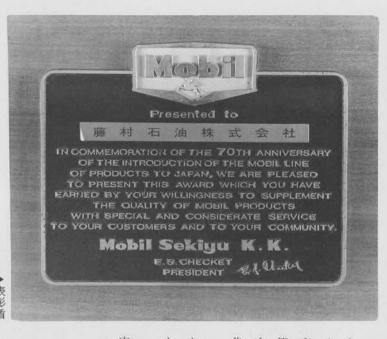
一九○○年代に入ると、アメリカはすで 自動車の実用化が進み、フォードが大量生 度方式をスタートさせていた。日本に初め で自動車が輸入されたのは明治三十七年( でも動車が輸入されたのは明治三十七年( でも動車が輸入されたのは明治三十七年( でも動車が輸入されたのは明治三十七年(

考案されて以来のことである。 キごろボストンで手動ピストン式ポンプが 中ごろボストンで手動ピストン式ポンプが を取売店、修理工場などに貯蔵容器を置 車販売店、修理工場などに貯蔵容器を置 車販売店、修理工場などに貯蔵容器を置

ガソリン販売業者は自らの手で給油場 は割高になる、 つようになった。 これにより地下タンクの設置が可 ができた。 自 動 一九一六年までに米国の 車 修理工場 L との客の不満などもあり、 かし、 (ガレージ) ガ レ 万八五〇〇 ジでの給 に給 能と 油設 を 持

ション(給油所)の原型である。ドライブイン・ステーションの二つのタイドライブイン・ステーションの二つのタインの給油場は街頭ガソリン・ポンプ式と

第一号だといわれている。
第一号だといわれている。
第一号だといわれている。
第一号だといわれている。



▶表彰盾

# 全日空機松山沖墜落事故の

### 思い出

▼墜落した全日空機(写真提供/愛媛新聞社)



の大惨事であった。
ル会員絶望。松山空港始まって以来の大惨事であった。

取材、捜索のヘリコプター、全日空の特別機が昼夜を問わず松山空港に舞い降りた。藤村石油はこの給油に舞い降りた。藤村石油はこの給油に舞い降が駆けつけた。食事をとる暇など物論なかった。空港ビルがまだ完成の論なかった。空港ビルがまだ完成

石油空港事務所に対策本部が置かれた。当社では、救援、捜索、原因解 けのための検証など全面的協力を惜 しまなかった。

五月、愛媛県警察本部長より感謝状近号された。

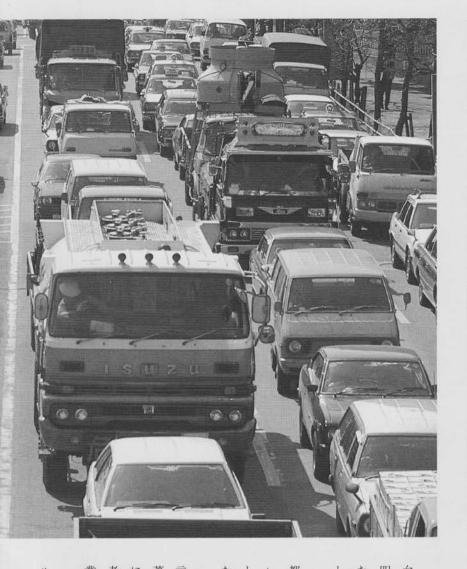
空港営業所ではこの事故を教訓とに励んでいる。

自覚し、絶対安全を期す。 預り、航空機に給油していることを 預り、航空機に給油していることを



▶県警本部長からの感謝状

# ーションの到来



都市集中化に伴いガソリン消費量も上昇して た。その年、保有台数は実に七百万台を記録 四十年はどうか?二倍以上の急増ぶりであっ 台数は三百万台を切っていた。五年後の昭和 いった。また、道路整備が進んだこともこう している。当然、ガソリン市場も拡大した。 したモータリゼーションの進展に拍車をかけ 貨物輸送量、鉱工業生産量の伸び、 昭和三十五年のわが国ガソリン自動車保有 人口の

業の充実が図られた。 者が力を注ぐようになり、 著るしく増加したのもこの時期である。 に給油所のサービス、技術、 言うまでもないこと。販売業者数、 同時に高性能ガソリン、高級エンジンオイ ガソリン販売競争が激化していったのは、 社員教育、 知識向上に各業 給油所が 厚生事 さら

ルが続々登場した。「モービロイル・スーパ

### ──石油のQ & A ──

### Q 日本の石油消費量は?

A 年間約2億50万キロリットルといわれています。これは1日あたり約70万キロリットル。1人あたりの年間消費量は18リットルの灯油缶約115缶分。世界ではアメリカ、ソ連に次いで第3位の消費量です。

### Q 1次エネルギー、2次エネルギーとは?

A 自然から生まれたエネルギー源となる石油(原油)および天然ガス、石炭、水力、原子力などが I 次エネルギー。それを加工転換することによって得られる電力や都市ガス、コークス、練炭を 2 次エネルギーと呼んでいます。

### Q 国内で生産される原油の量は?

A ピーク時で90万キロリットルですから、自給率はわずか0.2 %といえます。

### Q 輸入原油の供給源は?

A サウジアラビア、アラブ首長国連邦など中東地域諸国が70 %以上を占めています。国別にはサウジアラビア、アラブ首 長国連邦、インドネシア、イラン、中立地帯、中国の順。 O PEC諸国からの輸入は約81%となっています。

### Q OPECEL:

A OPEC(石油輸出国機構)は自国の石油の権益を守るため に結成された産油国の集まりです。1963年設立。13ヵ国加盟。 自由世界の33%の石油生産を占めます。

### Q 国際石油会社(メジャー)とは?

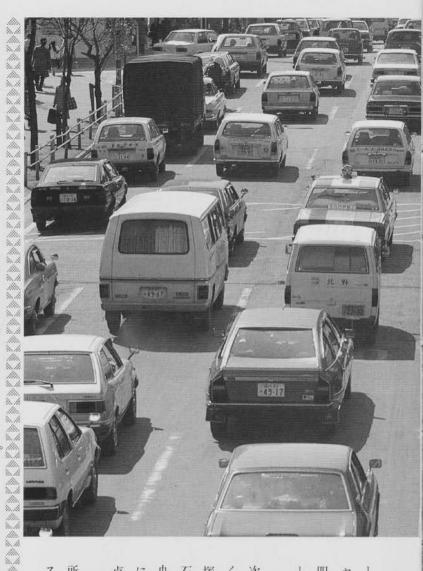
A 国際的に石油の探鉱から開発、生産、輸送、精製、販売まで一貫して行っている「国際大手石油会社」のことです。エクソン、モービル、テキサコ、ソーカル、ガルフのアメリカ系5社と、BP、シェルを加えた7社(セブンスターズ)、さらにCFP(フランス石油)を加えた8社(8大メジャーズ)を意味していますが、最近のOPECの台頭で再編の波が強まっています。

### Q 石油(原油)はあとどのくらい?

A 石油があとどのくらいあるかという目安として、可採年数 (R/P)が使われています。これは、ある年の原油確認埋蔵量を、その年の生産量で割った数値で、1984年初では可採年数は約35年。しかし未発見の埋蔵量も多く、石油開発技術の向上により、その伸びも予想されます。

### Q 石油代替エネルギーとは?

A 石炭、原子力、天然ガスなどを中心とした石油以外の | 次 エネルギーは石油危機以降伸びを見せています。将来的には、 太陽熱、地熱、核融合などの実用化も考えられています。



(五十八年)も新設され、着々とサービ

における石油製品及び 塚に吾川給油所を新設 石井給油 目に衣山営業所を新設 和 石油にお さらに四 月 六月 十四 D 代の要求 年には 伊 には、 ンガスの配 市 松山 松山 松山 地 市 市

四年)など画期的な新製品がモータリゼ」(四十三年)、「モービルHi(ハイ)」(四十二年)、「新モービルガス・スペシ

ンの到来とともに登場し



を向上させ、 そこで働く人々の意欲 だねられた経営は、 独立採算制の責任を

## 伊予藤村石油株式会社と 天山橋石油株式会社の設立

ると共に、 市天山町に移転新設す 役には栄一の母・藤村 金二百万円、 会社を設立する。 従来の伊予支店を分離 代表取締役梶野熊好。 立させる。資本金百万円 株式会社として分離独 所と吾川給油所である の給油所は、 房子が就任した。 これら、分離独立の 昭和四十六年十月に 昭和四十三年十二月、 伊予藤村石油株式 石井営業所を松山 天山橋石油 伊予給油 代表取締 資本

としている。 を考慮すると共に、 能な人材登用をも目的 密着した消費者の利便 由としては、 地域に 有

それが発

三年、 展の大きなエネルギーとなる。 四十四年、 建物面積二四七・五平方メートル、 厚生面にも力を入れることになる。 社員の定着と、 を越えた。藤村石油でも当然のことながら、 造従業員住宅を共同住宅に新築、 層の充実を計ったのである。 昭和四十年代に入ると、従業員数は七十名 同年六月から入居が始まった。 松山市吉藤町に従業員共同住宅を新築 伊予市下吾川に従来持っていた木 明日の活力の源泉となる福利 入居させ また昭和 昭和四十 戸数五戸

### 空港営業所 移 転 新 築

転新築した。 昭和四十五年、 藤村石油は空港営業所を移

したのもこの頃である 年代に入ると、 の建設に歩調を合わせたものである。 これは、松山空港の拡張、 東京―大阪間では連続百一便満席を記録 国内の空路は次々と開設され ターミナルビル 昭和四十

なった。所得水準の向上、 飛行機はもはや「雲の上」の乗り物ではなく 世界を股にかけて旅行団体を送り初めだした。 と更新される。農協という名の巨大な組織が 毎年のように旅客数は増大し、 海外旅行ブームが 記録は次々



景気。をもたらした。 景気。をもたらした。 当初、航空燃料の給 油方法は、ジェット燃 料は松前町から、航空

た。

国内の航空旅客にも影

十八年には百八十キロタンク一基が増設されれた。これによって、松山空港に就航している全日空、東亜国内航空合わせて約十一便への対応が、より効率的となった。さらに昭和四の対応が、より効率的となった。

▼天山給油所落成 (昭和46年12月)







▼落成祝賀会にて



▲防災訓練に参加(昭和45年)

バーグ夫妻はソコニー日本支社を表敬訪問 本総支配人グループだった。当然、リンド グを迎えた唯一の民間人来賓はソコニー日 が担当した。霞ヶ浦に着水したリンドバー で霞ヶ浦に飛来。全コースの給油はソコニー 関する調査のため、根室に飛来した。次い

満足の意を表して日本を離れたという。 ソコニーが提供した燃料と潤滑油に十分な



### 戦

### スとドイツの石油と鉄道利権に対する競争 は激しいものだった。しかし、世界の列強 十九世紀末に高まっていた。特にイギリ 中東石油利権に対する関心は、すでに 略物資としての石油

は、

第一次大戦後のことである。

九

一四年に起こった同大戦は、戦線で

が石油を重要な戦略物資として認識したの

### れたのはモービルオイルである。以来、ヴァ 九〇三年のライト兄弟の初飛行に使わ グの快挙

体燃料=ガソリン=の重要性を際立たせた。 の自動車群が発揮した機動性によって、液

キュームは航空機エンジンオイルに関して

夫人を同乗させ、太平洋横断航空路開拓に 常に第一人者だった。 九三一年八月、リンドバーグ準将はアン グによって最初の大西洋横断単独飛行に 一九二七年のチャールズ・A・リンドバ モービル "B" SAE60が使用された



▼本町営業所改装神事(昭和四十六年二月)



▲閉鎖直前の一番町給油所 (昭和48年2月)

▼閉鎖時の一番町スタッフ





▲落成式(同11月)

▲保免営業所地鎮祭(昭和48年7月)

### ▼落成を祝って





# 四十年代の思い出



▲野球チーム結成(昭和41年 伊予五色浜グラウンド)

### ▼石油ストーブ展示会にて(昭和44年秋 松山女学院)





▲レクレーション(秋吉台)



▲南紀白浜温泉観光記念(昭和45年5月)

### ▼記念行事で唄う社長





▲社員と家族の集い(昭和48年5月)

# プロパン・ガスのこと

置の許可を受けた。置の許可を受けた。

昭和三十年代には急成長を遂げた。 程前、昭和二十八年頃から家庭に普及し始め

とは敵対関係にある。 とは敵対関係にある。 とは敵対関係にある。

しかし台所革命ともいうべきLPガスの普しては二の足を踏んでいた。

及率とそのターゲットに注目する。

進入できる業者があろうか。 LPガス販売は直接家庭の台所に入って行

燃料販売が「やってくる」客を待つ受け身のそれならば、LPガスは「出かけていく」のそれならば、LPガスは「出かけていく」る。一度取り引きが始まるとよほどの事がない、同難れることはない。一ヶ月に一度の検針、ボンベ入れ替えなど客とのコミュニケーションが深まる。保安の責任管理は販売店まかせなので客の信頼度は大きい。

以上の利点に目をつけた栄一社長は、こう

ルでいった。 風呂釜、そしてリビングショップ設置へとL の道を地味ではあるが確実に進 れでいった。

だLPガスがあまり普及されていない当時は ・高後するが、昭和三十二年、伊予市で、ま ・高後するが、昭和三十二年、伊予市で、ま ・高後するが、昭和三十二年、伊予市で、ま ・高に、当社の

> 自転車の荷台にガスボンベを一台くくりつけ と通じて藤村石油に流れる商売スピリット まのである。

現在LPガス普及率は約七○%。従来の厨房給湯用は勿論のこと、暖房、冷房へと新し

築などLP部門も着実な伸びを見せている。消費者ニーズにあった商品販売、台所の増改さらに、安定した顧客ルートを生かした、



## 石油危機起こる

昭和四十八年―四十九年にかけての第一次

日本国内の石油需要は、昭和四十二年度には一億\*\*型の大台を突破、四年後の四十六年度には早くも二億\*\*型台に乗せる急増ぶりを見せていた。一次エネルギーに占める石油の供給比率は四十六年度で七三・五%にも増大

入った。 を握り、 とアラブ産油国は、 次中東戦争が勃発。 さらけ出していく。この間、 ギー問題は海外の事情に左右されるモロさを 輸出国機構)は価格戦略を練りつつあった。 石油依存度が高まるにつれ、 九七三年(昭和四十八)、十月六日、 未曽有の石油危機をもたらした。 産油国が原油の価格と生産の決定権 価格値上げ・減産体制に これを機にOPEC諸国 O P E C 日本のエネル (石油 第四

ずまずの業績をあげていた。 の不況が深刻化するなかでも、 ビル・オイルが月平均供給量の約九〇%を確 機の数ヵ月間 ンフレが進行中に実施された原油価格値上げ 導の対策が構じられた。狂乱物価で激しいイ この時期、 日曜・祝日休業、マイカー規制など政府指 わが国では、 国民生活、 公平に供給したこと。このため、 特筆されるべきことは、 (昭和四十八年 エネルギー危機により給油所 石油業界に大打撃であった。 一九月)、 モービルはま 石油危 モー

挙げられる。

石油危機の際、藤村石油社長・栄一は祖父・長十郎の教えを思い出していた。「石油でもうは苦しいことの連続であろう。この苦しさを普通のこととして受け止めてさえいれば、多少のことは乗り越えられる」という教えを一。この教えを胸に栄一は第一次、第二次と続く石油危機時代の陣頭指揮に立った。したがく石油危機時代の陣頭指揮に立った。したが

乗り切ることが出来たのである。

一九七九年 (昭和五十四年) 一月に起きたイラン革命、翌年のイラン・イラク紛争によって両国原油量の実質的減量を招いた。再びわが国は石油ショックをこうむった。 わが国では石油需要の減少、乱売合戦など

はじめる。



▲中東油田

## 代理店80年で表彰

昭和五十年、オイルショックの余波は県内の企業にも黒く影を落としていた。企業倒産は史上最高を示し、不況の嵐が吹き荒れていた。が、藤村石油では新年から慶事の幕開けた。が、藤村石油では新年から慶事の幕間け

置され、新しい消費者ニーズへの対応も計っ 用生活用品を扱う「リビングショップ」も設 大増改築に着手する。本社には、新たに台所 九月、藤村石油㈱の資本金を三千万円とする 村石油㈱の資本金を一千万円に増資、さらに 典も盛大に取り行われた。七月には、 に敬意を表わされた名誉あるものであった。 繁栄にも大きく貢献してきた藤村石油の活躍 品の販売を通じて顧客に奉仕し、 社から表彰を受けたことである。 それは、昭和四十年の販売代理店契約七十 またこの年、岩谷産業プロパン二十周年式 再び八十年でモービル石油株式会 本社事務所及び本町営業所の 地域社会の モービル製 伊予藤

それほどの影響を及ぼすこともなかった。

着実な経営を続ける藤村石油にとって、

オイルショックの波も、

安定した顧客を持 ▼表彰を受ける社長(昭和五十年一月 Mobil 每右后边核式会社 殿 THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PARTY OF CANADASTRI FRANCESCO DE LA CONTRACTOR DE BMEENTERS BASAL → NOS MAN SHEEFER MEDEUM FEO IN ANY (MARKET) 記念の盾り



▲本社新装開店セール(昭和51年8月)





▲新設されたリビングショップ(昭和51年8月)

▲本社社員と共に

# 新しい時代への躍進

## 代理店90年で表彰

昭和六十年、当社は創業百十五年を迎えた。 思えば、明治三年 (一八七○)、日本の近代国家の夜明けに、伊予国郡中の地でランプ用灯油として菜種油商を創業して以来、幾多の試油として菜種油商を創業して以来、幾多の試きた。当社は、堅実な歴史の積み重ねと、時きた。当社は、堅実な歴史の積み重ねと、時きた。当社は、堅実な歴史の積み重ねと、時きた。当社は、堅実な歴史の積み重ねと、時きた。当社は、堅実な歴史の積み重ねと、時

でダムス・シュニア氏が自ら当社を表敬訪問 その業績はモービル石油会社からも高い評 和五十七年、モービル石油社長ファニエル・ 和五十七年、モービル石油社長ファニエル・ 和五十七年、モービル石油社長ファニエル・ の業績はモービル石油社長ファニエル・ の業績はモービル石油会社からも高い評 のまた、 のまた のまた、 のまた のまた、 のまた、 のまた のまた、 のまた、 のまた のまた、 のまた のま

されたのも、このような背景からであった。こうして昭和六十年、四度目の記念盾がモービル社から贈呈された。一世紀にわたるモービル石油会社と藤村石油株式会社の歴史と信頼関係を再認識し、さらに輝かしい歴史創造へ向けての新たな出発点でもある。

## 二十一世紀に向けて

理念によって確固たる社内体制を有しているした。これは、連綿と受け継がれてきた経営油は愛媛においてナンバーワンの企業に成長こうした『時代の波』に立ち向かい藤村石

からに外ならない。

王学》を身につけるため奮闘している。 の泰雄も、昭和五十四年に同志社大学を卒業。 の泰雄も、昭和五十四年に同志社大学を卒業。 入社後、五十六年には藤村石油に入社し "帝

て、まだまだ石油は必要とされている。イオクなど高燃費ハイオク・ガソリン時代はすでに幕を開けている。車だけではない、各種輸送機関、大衆レベルのエネルギー源として、まだまだ石油は必要とされている。

たしかに石油元売り企業の再編成、集約化が進み、小売り市場での過当競争に歯止めを が進み、小売り市場での過当競争に歯止めを 生活必需品」としてのポジションを追われる ことはない。それほど、普遍的で不可欠の商 ことはない。それほど、普遍的で不可欠の商

▶躍進へのキャンペーン表彰式(昭和五十二年二月)





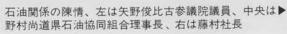
あろう。ユーザーに対するサービス業務と地 百二十年~二十一世紀に向けても藤村石油は 11年のようである。



▲当社を訪れたモービル石油前社長ファニエル・アダムス・ジュニア氏 左からモービル四国支店長 藤村栄一 モービル社長 藤村泰雄



▲モービル石油前社長ファニエル・アダムス・ジュニア氏と のゴルフ (昭和57年8月/松山ゴルフC川内コース)





▲モービル石油販売代理店契約90年記念盾



集約型企業を目ざさねば、急速度に進む情報 社会に立ち遅れる。特に石油業界は国際的政 事、研究を怠らず、未来に向かってチャレン ジする―そういう企業づくりを全社―丸とな ジする―そういう企業づくりを全社―丸とな

きる体制を整えることであろう。

ニューメデ

ハイテクノロジー時代を見通した知識

さらに大切なことは、

情報化社会に対応で

体質の醸成に努めてゆかねばならない。

向上が大切であり、

オイル・マンらしい企業

くりが基本姿勢。それには企業としての資質域社会への貢献によって、信頼される企業づ

■モービル石油杉原泰馬社長と(昭和五十八年五月二十七日)

▲躍進コンクール目標の伝達



▲声をそろえて、バンザイ三唱





▲九十周年記念躍進コンクール決起大会

68

▲社長あいさつ



▲創業115年を記念して伊予市民の森に植樹

や てくれまでと映った人
や てくれまでと映った人
と 二十八年には窓中から松
と 二十八年には窓中から松
度 今のを目がホテルの原で、
日 ペガサスない品を選手を
明 ペインサスない品を選手を
は 三十五年、側人様勢か
は 三十五年、側人様勢か
に モータリヤ・ションの後に
任 し乗り、吹くと船間を増
地参 やり、原に借りた公童
総さ やし、原に行りた公童
総さ やし、原に有りに知会社こつを
をも 所、伊千市に知会社こつを



石油とともに90年。客への情報サービスを目指す藤村石油=本町6丁目営業所

### 藤村石油

創業90年=石油、プロバンガス販売 藤村栄一さん(58)経営 松山市本町6丁目7ノ1

> 度は今一つ。太平洋 を休業した時期もあ また購入した田畑も また購入した田畑も また購入した田畑も また購入した田畑も

物品となり、店 ている仕 財和もあった。 もって」 砂期もあった。 もって」 砂期もあった。 もって」 砂期もあった。 もって」 がで、80名二十 が最も大 がで、80名二十 が最も大 で、50名である。

次々に給油所オー

を確信

在もの、しかし、他と呼に よみがでもコンコンを働き 世 ます。世の中のためになっ ている仕事だという自信を もって、して、またオイルシ ・ックの時しからで、日本 にない資金数では、を定はの にない資金数では、をではれる。

しかし、抽生のよう 記念 あり、抽生のよう 記念 しかし、抽と行に トイ

は、いては、砂の排送をよる。 楽しと説く、道路の保護へか 場の有無なりを表に知らせ 場の有無なりを表に知らせれてきるされいなよく心も 備えたいという、九十畑年 記念として今夏、女性専用 とイレも天護したモダンな 常黒所が伸手市にオープン する。

■「ゆうかんえひめ」昭和60年7月15日付の\*しにせ繁盛記。 で藤村石油が紹介された

69

出席者

新

野進

郎

尾越

徹

### 出会い、 思 出

倉田 ご臨席賜りまして誠に有難うござ 九〇年の慶事を祝しての座談会に びにモービル石油の代理店として ます。 藤村石油の創立一一五周年並 皆様方には、 ご多忙のとこ

すが、 だきましょう。 にさかのぼって、 お話をしていただきたいと思いま や藤村社長との出会いなどから、 さて、 まず、 ご臨席の方々に藤村石油 藤村社長から創業期 お 話をしていた

藤村 私の祖父である長十郎が積極的に 販売を始めました。 した私の曽祖父・藤村嘉吉が石油 明治三年に菜種油商を開業 実際の仕事は

ようです。

神戸 ビルさんの前身のニューヨ 取 依頼したようです。 ス に進取の精神に富んでおり、 タンダード石油 り組みました。 営業所にいって販売代理業を この祖父は非常 (ソコニー)の E

神野 ると、 したようです 織でしたが、 店制度による直接販売方式を採用 始したのが明治二六年。 各販売業者という中継販売の組 当時は引取者・ ソコニーが日本で営業を開 明治四〇年頃に代理 問屋・仲買 記録によ

限られたお店としか結ばなかった 灯油の販売が主で、 初 のようです。 74 国では藤村さんのところが最 当時はランプ用 代理店契約は 0

> です。 に私の 新 は、 野 藤村君のお父さんの長雄氏 姉が嫁ぎまして、それ以来 藤 村石油さんとのお付き合

こそ、 思います。 と繁栄させることができたのだと 商才と信念がかみ合っていたから があって信仰心の強い人でした。 て頂きました。 長十郎さんとは大変親しくさせ ランプの灯油から石油業へ 意志が固く、 商才

庁 す。 商売は戦争中統制のため休業して でも藤村君の気持は父祖伝来の事 U 屋業には熱心ではなかったようで 藤村君のお父さんは、 へ入れなさい、 たので、 藤村君は学校卒業後、 私はお父さんに彼を県 と言いました。 あまり油 家業の

### (司会) 神野 倉田 藤村 順不同敬称略 三郎 栄 尚 文

### ■出席者プロフィー

工会議所会頭·愛媛県商工会議所連 山空港ビルディング㈱社長・松山商業・伊予鉄道㈱代表取締役会長・松日生まれ・九州帝国大学法文学部卒 新野進 郎郎 明治四十三年三月二

治商工会議所常議員 東石㈱社長・瀬戸内運輸㈱社長・今 日生まれ・神戸大学経済学部卒業・ 尾越 徹三 大正九年三月二十三

長 本野 尚文 昭和十六年三月十九日生まれ・室蘭工業大学鉱山工学科 立 田和十六年三月十九

賃金審議会委員(公益委員)・松山地商科大学経営学部教授・愛媛県最低商科大学経営学部教授・愛媛県最低経営学科研究課博士課程終了・松山経営学科研究課博士課程終了・松山倉田 三郎 (司会) 昭和十一年十 方裁判所調停委員 賃金審議会委員(公益委員)・

議所副会頭を業・藤村石油㈱社長・伊予商工会を業・藤村石油㈱社長・伊予商工会 藤村 栄一 大正十五年九月二十



最も印象に残っているのは、昭和二四年に藤村君が事業を再興するとき、長十郎さんも健在でしたが、東京のモービル石油の偉い人が長十郎さんを覚えていて『それならば』ということで石油販売が出来るようになったと聞いております。藤村君は長十郎さんの性格の良いところも悪いところも大体受け継いでおります。

藤村 私の父・長雄は私が子供の頃は、郡中の助役をやっておりました。当時は、昔から田地を多く持っていたので年貢米が入っていました。その方の仕事を父がしていました。当時は商売専業ではなかったようです。でも、他に事なかったようです。でも、他に事なかったようです。でも、他に事なかったようです。ですから、今の収入役をやれ、ということになったのだと思います。ですから、今の収入役の仕事と異なり、名誉職だったんですね。

を始めたわけです。

売所』という会社を設立し、経営

油屋というのは、明治初期から 始めた菜種油商から石油商という ことで、皆さんには『油屋』とし ことで、皆さんには『油屋』とし で知って頂いたようです。いつか の石知事にお会いしたとき、知事 が長十郎さんを覚えていて『それ **尾越** 私どもも今治でモービルの 大東京のモービル石油の偉い人 に恵まれた男だと思います。 藤村の後継ぎですから。 屋という方がわかりやすい』といるとき、長十郎さんも健在でした 得て助けて頂きました。私は先祖るとき、長十郎さんも健在でした 得て助けて頂きました。私は先祖るとき、長十郎さんも健在でした 得て助けて頂きました。私は先祖るとき、長十郎さんを覚えていて『それ **尾越** 私どもも今治でモービルのが長十郎さんを覚えていて『それ **尾越** 私どもも今治でモービルの

石油を扱っておりましたが、本職 は石炭屋でした。 朝鮮動乱後の不景気で、各地で 石油店が倒産しました。今の松山 全日空ホテルのある裁判所前の角 地にスタンドがあり、かなりの老 地にスタンドがあり、かなりの老 地にスタンドがあり、かなりの老

このときが藤村君との始めての 出会いで、昭和二九年二月のこと でした。社長が藤村君であり、そ のとき始めて新野会長にお会いし ました。以来長いおつき会いを願

## エネルギー情勢

**倉田** エネルギー資源としての石油の一般的な情勢にからめて、石油事業の在り方などをお話願いた

%ぐらい伸びるでしょうね 藤村社長のところで扱っておられ これからも落ちてゆく見込です。 うでないものがあります。ガソリ 将来伸びが見込まれるものと、 るジェット燃料などは年間二一三 ン、軽油は着実に伸びるが重油は 原油から取れる製品の中で、 そ

油販売業の重要な課題だと思いま って、どのようにして販売を伸ば うな需要予測のもとに未来に向か 需要が約束されています。このよ しては、将来にわたっても安定的 つまり交通手段のエネルギー源と 物を動かす動力源としての石油 安定した利益を上げるかが石

尾越 思います。 などの立地条件』『企業としてのキ よって事情が異なりますが、松山 モータリゼーション時代の燃料と して油を減らしているとはいえ、 評価しても可能性を秘めています。 のガソリン需要は今後も伸びると して石油に代わるものはないでし ヤリア』『経営者の力量』などから 松山と今治では立地条件に 石油事業は堅い事業だと思 四国電力が原子力を推進 藤村石油は 『道路事情

どんどん拡大してほしいというお

話もありましたが、

あまり一気に

やるのはどうかと思いますので。

私の方に代理店業務をやってい

神野

藤村社長がおっしゃるよう

ます。 厳しい状況と思います。 は正常な流れになっていると思い がっていることですし、 藤村石油の場合は多少の利益も上 にメーカーと代理店の関係は大変 る系列会社がありますが、 石油業界 しかし、 一般的

藤村 でも、私の考え方では一度に過大 まできています。モービル石油さ のです。それと、私の会社では、 にしなくてはいけないと思います。 な投資をしては後が大変で、 油会社も力を入れているようです モービル石油をはじめ、どこの石 まれている石油市場のようです。 の中でも松山が最も将来性を見込 んから言えば、もっと卸も小売も 売直売』を重視した考え方で今日 で建てたもので、 『卸』はあまり積極的にせず、『小 現在のスタンド六店は全部自前 現在四国の中では愛媛、 漸次建設したも

継続していけた理由の一つは、 遅いのです。今まで我が社が永く こにあろうかと思います。 歩積重ねていくためにテンポも 自分の力に応じたやり方を一歩 2

慎重 きませんので、 小売マージンも当面多くを期待で いうのはコストの高いものですし 資を続けるのは危険です。 に、 自社の体力の限界も知らず投 過剰投資には気を

▲新野進一郎氏

倉田 うお考えですか。 ついてはモービル石油としてはど つける必要があります。 石油製品の輸入・自由化に

ても、 ます。 神野 な混乱は起こらないと予想されま と思われますので、 輸入が認められるようになるとし 大きな潮流には逆らえないと思い 議を呼んでいます。これはあくま いうちに来るでしょう。 で私見ですが、製品自由化という ガソリン輸入は今大きな論 輸入が具体化する時代が近 計画的で秩序ある形となる それほど大き しかし、



メーカーと代理店の 意思疎通

石油と

うぞ。 倉田 親であるメーカーがしっかりして を選ぶことがほとんどできません。 れ要請することがありましたらど 子から親へ、 存在も危ういと思います。そこで ないように、 いないと、子の代理店・販売店の 子供が親を選ぶことができ 代理店、 親から子へ、それぞ 販売店も親

尾越 たようです。 的な考え方のギャップが相当あっ と代理店との関係については根本 きだったと思いますね。メーカー は、もっと積極的にやっておくべ モービル石油の代理店政策



が、現在では各メーカーとも変わ 私どもとしては、石油が一番とも称されていました くありません。以前は品質においてはモービル のとはいえません。

藤村 図り支援体制を取れるようにして どもの体質が弱くては、 低いレベルに甘んじています。 油は八%のガソリンシェアを持っ 強い体力をつけてほしいと期待し 今以上に私ども自身の体質強化を のバックアップも不充分ですから ていますが、愛媛は六%台という ています。日本全国でモービル石 体質改善をして、 め四国の代理店が、 いきたいと思います。 モービル石油さんは、 よそよりも早く 藤村石油を始 より積極的に 代理店へ 全て

のですが、スーパーでも二〇%の

荒利があるのに石油は僅か一○%

まかない切れません。足り

が力を合わせないと解決できませ

事業としては堅いことは堅い

題もあり、

現在では元売、代理店

りはないと思います。となると、

あとは価格でしょう。

小売店の問

の販売基盤は必ずしも確固たるも 四国におけるモービル石油

の販売でそろばんをあわせろ、とセサリーなど、いわゆる油外商品

いというのは、やはりおかしいで

において合理化を徹底する会社で

大変立派なことではあります

いますけど油屋が燃料で食えな

ない分はタイヤ、バッテリ、

アク

特に愛媛は強 発、 どこかにしわ寄せがきます。 営を実践できるようにしたいと思 ていき、 意見をよく聞いて良い方向へ持っ 重要な役目と自負しています。ご 売の指導を徹底することは我々の いような援助を切望しております。 我々のところの社員教育、 行き届かなくなります。 ために代理店に対するサービスが いうように徹底して合理化すると、 います。 社員が少ない、借金がないと レベルアップにまで支障のな 確かに代理店さんに小売販 代理店さんが効率的な経 できれば 能力開 その

**藤村** 我々はサービスステーショにそういう再教育をしてほしいとにそういう再教育をしてほしいと

立ちません。 全後やっていけません。そのため の必要最小限の大きさなど、さま がまな基準があります。非効率的 なスタンドは、より大きく建て替 なるとか、努力をしなければ成り 立ちません。

尾越 モービル石油の代理店自体は他のどの元売販売店にも負けないくらい内容がしっかりしています。そうゆう点でも、もう少し代理店・販売店に信用を与えて物を売らせてみてはどうですかねえ。小売店の現況をなんとかすることと、代理店の再編成をこれからとと、代理店の再編成をこれから

## サバイバルニー世紀への



▲神野尚文氏



▼尾越徹三氏

ていただこうかと思います。 イバルする経営戦略について、 -ダーとしての立場からご提言し カーの立場から、友人としての 藤村石油が二一世紀にサバ あるいは地域経済のリ

を乗越えながら、 組織を簡素化していくことが大切 強化を図って、 店にとって非常に厳しい時代が続 た投資も心がける必要がありま 過当競争による淘汰の時代 これから数年間は石油販売 これを乗切るには、 経費を節減したり、 自分の体力に合 体質

越して、まず組織の活性化と人材 の大きさだと思います。将来を見 いろなことを考えていく上で最適 藤村石油のサイズは、 今後いろ

お願いしたいと思います。 ベースに今の器を大きくするよう る代理店ですので、ぜひ、これを 用も非常に高く、 の育成を徹底してほしいと思いま 藤村石油さんは、 将来を期待され 私どもの信

新野 るものと確信しています 成努力が実を結んだときには今の 一倍、三倍の大きな会社に発展す 後継者の育成と会社内の人材育 藤村石油は、大きくない同

な後継者にすることが根本的に最 ために教育し、勉強させて、 代を現在の社長以上のものにする はしているようですが、 なろうかと思います。 後継者といえば、 そ後継者の育成が大事なのです。 族会社で個人企業です。だからこ 藤村君の息子に まあ、 今後の時

> ません。 藤村 なことだと思います。 おいて、 い姿勢で後継者を育てなきゃなり 易に流れる恐れがあります。厳し 都合よく運んでいれば、 申しますが、 つの事業です。『事業は人なり』と も大切なことだと思います。 まあ、 後継者育成については、 事業を継続していく上に 藤村石油も小さくても一 後継者育成は非常に大切 同族会社というのは とかく安 モ

思います。現在二八歳ですが、ま もっと苦労をさせる必要があると 甘やかされる点もありますので、 会社では社長の息子ということで 的な教育をしてもらっています。 会にも参加させて頂き、 ております。 ービル石油さんに特にご協力頂い 全国の後継者の勉強 大変専門

> 仕事をさせていますがどうかよろ しくお願いします。 だ学生気分というか責任感がうす いようです。 少しづつ責任のある

です。 君自信も四国の代理店の中では第 況を考えても発展性があり、 尾越 松山という好立地条件、 含む人材教育を怠らなければ万全 人材の時代です。 います。 ル石油の協力があれば絶対だと思 た航空燃料取扱い、 人者の力量を持っておりますの あとはメーカーであるモービ 中小企業も、これからは 後継者の育成を 将来の道路情

### 藤村石油の 未来像

倉田 最後に藤村社長、二一世紀



倉田三郎氏

藤村 ても、 振り返ってみれば、私は運が良か まれ、今もその仕事をしています。 さんの前で聞かせてくれませんか を目指す経営者としての抱負を皆 子ということで、苦労もあまりあ できました。お客さまも油屋の息 ったですね。 私は代々の油屋の息子に生 昔のご縁で販売することが 戦後の油屋再開にし

か寄りどころがなければと思い始 仰していましたので、 なりました。私の父母、 比羅さま』にお参りに行くように 思ったほどです。これを機に『金 ったですね。商売をやめようかと の社員の交通事故が非常につらか 苦労といえば、三〇年くらい前 人間はどこ 祖父も信



てみて、 b いわけで、 ました。 なったので、

いて、

情報の交換、提供場所、

しかし、お客さまに集っていただ にかするのは無理な面があります。 法上の問題があって、その場でな

では、 子、 例を上げると、ガソリンスタンド の評価が上がるわけですね。 さまの評価が全く違ってくるでし 知ることができるとなれば、 リー状況、 情報を備えておく必要があります。 で存続するわけですから、 これからは、情報化社会のなか モータープールの場所、

倉田 どの交流をしています。 現在お客さまとの野球、 すが……。 方についてもお考えがあるようで 地域との関係については、 お客さま テニスな

めました。

りませんでした。

さんや銀行に認められることにつ 買収を進めました。そうした決断 ないことが多く苦労しました。で 地買収に行って、相手に信用され ながったと思うのです。 が財産として評価され、メーカー いるときに決断しなければいけな それと、私は若いうちに社長に それよりも買収の決断に悩み 過半数の可能性があれば ある程度の条件が揃って できるだけダメ押しし ガソリンスタンド用

場所にしたいと考えています。 域社会とのコミュニケーションの

とが大切だと思います。現在、モ

ドそれぞれの個性を発揮させるこ

また、我が社の六か所のスタン

ービル石油さんの指導で新しくス

タンドを改装しています。伊予市

道路交通状況、観光地の様 情報面においてもスタンド 地域社会とスタンドの在り 飛行機子約状況などを 多様な お客 フェ

ドライブする女性に利用してもら

女性客の開発をねらっていま

ます。そして、スタンドの中に男 しないように致したいと思ってい お客さんに給油が出来てお待たせ 敷地を広くして一度にたくさんの のこのスタンドは郊外型なので、

女別々の大きなトイレを作って、

倉田 ことを祈念して、この座談会を終 二〇〇年に向かって発展されます どうもありがとうございました。 待しています。今後、一○○年、 わりたいと思います。長いあいだ (昭和六〇年七月一三日 藤村石油の前途を大いに期 松山全

うことですね。 の信頼関係、情報提供を図るとい

ガソリンスタンドの場合、

日空ホテル松の間にて)

### 藤村石油グループ組織図

### 藤村石油株式会社



### 伊予藤村石油株式会社



### 天山橋石油株式会社



### 藤村栄一略歴

大正15年9月25日生まれ

昭和23年3月 鹿児島高等農林専門学校卒

(現鹿児島大学農芸化学科)

昭和35年5月 四国マルヰ協同組合理事長

愛媛県エルピーガス保安協会理事

7月 愛媛県石油業協同組合理事

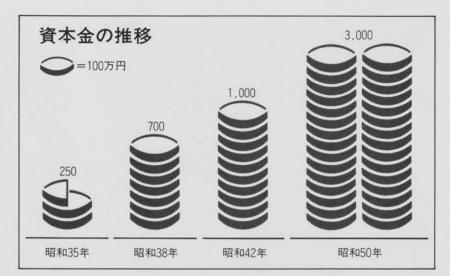
昭和38年9月 伊予商工会議所副会頭

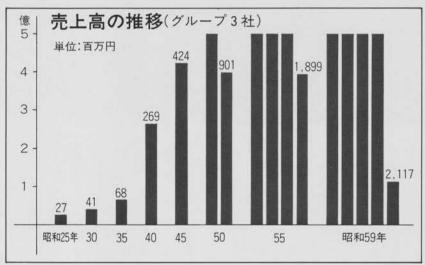
昭和45年 愛媛モービル石油協同組合理事長

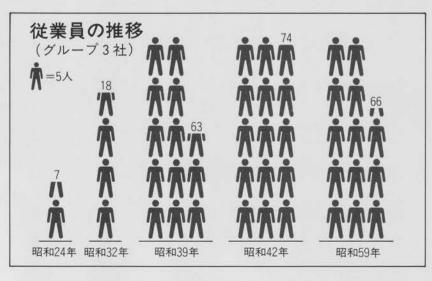
四国モービル会副会長

昭和46年5月 伊予信用金庫理事

昭和60年7月 伊予市観光協会会長







### 藤村石油株式会社グループ概要

### ■藤村石油株式会社

本 社 〒790 松山市本町6丁目7-1

TEL (0899)25-1230

代表者 藤村栄一

資 本 金 3,000万円

従 業 員 36名

営業品目 石油製品全搬・航空燃料・プロパンガ

ス・ガス及び石油器具・保険代理店

営業所 本町・衣山・保免・北藤原・空港

### ■伊予藤村石油株式会社

本 社 〒799-31 伊予市湊町51番地

TEL (0899)82-0153

代表者藤村孝子

資本金 1,000万円

従 業 員 24名

営業品目 石油製品全搬・プロパンガス・ガス及

び石油器具・保険代理店

営 業 所 伊予・吾川

### ■天山橋石油株式会社

本 社 〒790 松山市天山町328-2

TEL (0899)45-2678

代表者 梶野熊好

資 本 金 100万円

従業員 6名

営業品目 石油製品全搬・保険代理店

営業 所 天山

### ■取引銀行

伊予銀行湊町支店

広島銀行郡中支店

愛媛相互銀行大街道支店

### ■主要取引先

愛媛県庁 全日空 四国電力 松山市役所 東亜国内航空 井関農機

伊予市役所 伊予鉄道 建設省松山工事事務所

### 沿革

明治3 藤村嘉吉、郡中(現伊予市)に菜種油商を創業

明治28 ニューヨーク・スタンダード石油会社と特約販

売代理商契約を締結

大正3 藤村石油店、ス社より功績を讃えられる

昭和18 戦争のため家業は休業状態となる

昭和24 営業再開、藤村栄一代表者となる 8月 四国通産局長より石油販売許可受ける スタンダード・バキューム石油会社と取引再開

昭和28 12月 松山市一番町給油所の運営を行う

29 2月 一番町給油所を㈱ペガサス松山発売所

昭和31 2月 松山―大阪間定期航空便開始、第1号 機から給油開始

昭和32 2月 伊予給油所を地下タンクに改装

12月 岩谷産業㈱とプロパンガス販売の契約

昭和34 4月 伊予市海岸に海上受入重油タンク設置

10月 伊予市下吾川に木造従業員住宅建設

昭和35 7月 藤村石油株式会社設立

昭和36 3月 運輸省より松山空港構内営業許可受く

12月 ス社の分割に伴い、モービル石油㈱の代理店となる

昭和37 2月 松山市本町6丁目に本町営業所設置

昭和38 7月 ㈱ペガサス松山発売所を藤村石油㈱一 番町営業所とし、本社を伊予市より松 山市一番町に移す

昭和39 10月 本町営業所増築 本社を本町に移転

昭和40 1月 空港営業所を設置

昭和42 4月 伊予市下吾川に吾川給油所設置

6月 松山市石井町に石井給油所設置

昭和43 6月 松山市吉藤町に従業員共同住宅建設

12月 伊予営業所を分離し、伊予藤村石油㈱ 設立

昭和44 9月 松山市中央1丁目に衣山営業所設置

昭和45 4月 松山空港拡張に伴い空港営業所移転 事務所、倉庫、タンク等も新築

昭和46 10月 石井営業所を松山市天山町に移転する と共に分離し、天山橋石油㈱を設立

昭和48 2月 一番町営業所を廃止

11月 松山市保免町に保免営業所を設置

昭和49 1月 会社社章制定

昭和50 9月 資本金3.000万円に増資

昭和51 2月 本社増改築 リビングショップを設置

昭和53 10月 日本商工会議所100周年で藤村栄一功 労表彰を受ける

昭和55 7月 本町営業所大改築

昭和58 3月 松山市北藤原町中居石油㈱北藤原給油 所を引継ぎ北藤原営業所とする

昭和59 10月 伊予市制30周年で功労感謝状を受ける

11月 松山税務署長より優良法人として表敬

昭和60 1月 モービル石油㈱より代理店90年の表彰

3月 創業115年 伊予市民の森に記念植樹する

4月 90周年躍進コンクール決起大会挙行



### 社章の由来

藤村石油の社章は、昭和49年 | 月6日に制定された。 これは4代目藤村栄一社長自身のイメージをデザインし たものである。

青は母なる海と、藤村石油の燃料を満タンにしたジェット機の飛びかう青い空を象徴する。青はまた明日へ続く明るい未来をイメージする色でもある。

赤はエネルギーを示す。エネルギーは藤村石油の歴史 の中に燃えたぎる底知れぬ知と勇のパワーである。未来 に向かって突き進む若い芽ばえのエネルギーでもある。

中央を走る白いラインは、藤村石油の頭文字「F」を表わす。回りを縁取る円は、オイルの「O」である。文字の形は自動車の往きかうハイウェイにも見える。

赤と青が白いラインによって4つに区切られているのは、航空機、自動車、工場、家庭の4つのマーケットの意味を持っている。

それらをすべて統括し、社員一同が大きな輪となって、 明日の藤村石油を築いていこうとの熱い思いが、この社 章の基本ポリシーとなっている。

### ■あとがき

藤村石油株式会社社史をお手許にお届け致しま す。なにぶん、菜種油商を創業しまして一世紀を 越す記録ゆえ、ようやくまとめることができた一 との思いで一杯でございます。

これも、ひとえに関係各位の温かいお力添えと 御協力の賜と感謝いたしております。

初代、藤村嘉吉が菜種油商を開業するに至るまでの状況、幕末期から明治初期にかけての伊予、郡中などの社会・政治・経済情勢などは、詳細を記した資料も少なく難渋いたしました。石油販売代理業以降、二代目長十郎の商才、人柄などは、あぶらや時代からゆかり深い多くの先輩諸兄から身に余る御助言を頂きました。また、藤村家に伝わるモービル石油(株)との強い絆をしるす資料類も大いに活用することができました。

当社史は一つの区切りです。これを機に新しい 未来へのステップを踏み出す決意を抱いておりま す。皆様のより一層の御支援をお願い申し上げま す。

### 藤村石油株式会社社史

~エネルギー一筋に~

昭和60年10月1日発行

編 集 藤村石油株式会社

発 行 者 藤 村 栄 一

発 行 所 藤村石油株式会社

〒790 松山市本町6丁目7-1

電話 (0899) 25-1230

印刷・製本 凸版印刷株式会社

株式会社東洋印刷

編集協力 (株)トッパンアイデアセンター

有限会社ユニック